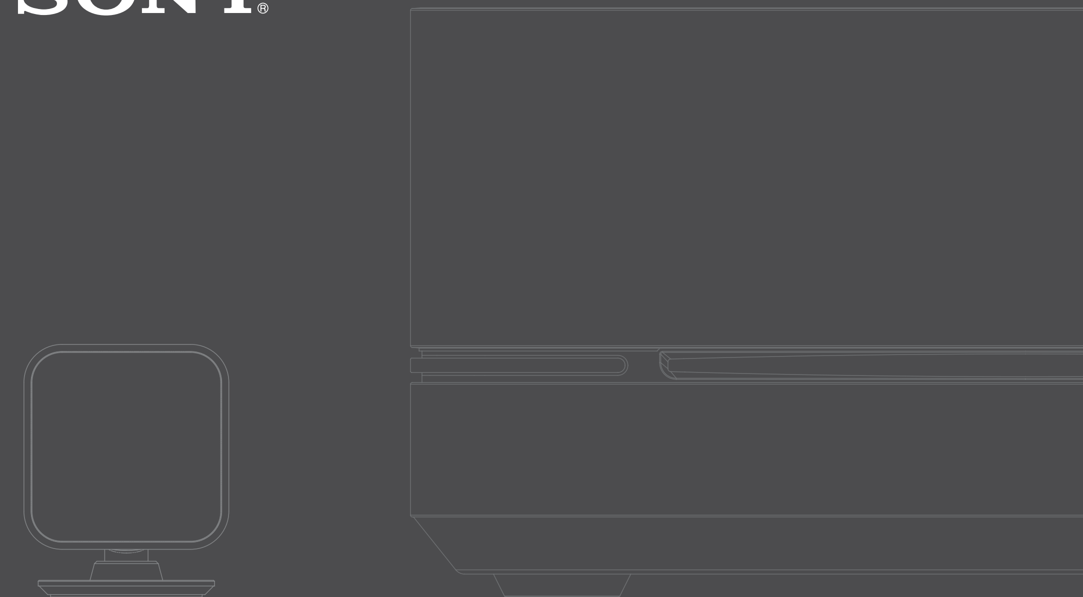
SONY

3-212-589-**03**(1)



DAV-IS10

DVD ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389 **受付時間** 月～金:9:00～20:00 土・日・祝日:9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

* 3 2 1 2 5 8 9 0 3 * (1)

Sony Corporation　Printed in Malaysia

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電　指のケガに注意

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

目次

安全のために 2
警告 5
注意 6
電池についての安全上のご注意 7
使用上のご注意 8
この取扱説明書の使いかた 9
再生できるディスクについて 10

接続と設定―基本編

同梱物を確認する 13
手順 1：スピーカーを設置する 15
手順 2：本機をつなぐ 18
手順 3：テレビをつなぐ 23
手順 4：クイック設定をする 24

接続と設定―応用編

テレビをつなぐ（応用編） 27
その他の機器をつなぐ 30
スピーカーを壁に取り付ける 32

基本的な操作

ディスクを再生する 36
ラジオやつないだ機器の音を楽しむ 39
テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ 42
サウンド効果を選ぶ 44
コントロールメニュー画面の見かた 46

音声を楽しむ

サラウンドを楽しむ 49
音質を調整する 51

HDMI コントロールで BRAVIA Link を使う

HDMI コントロールの準備をする 53
ボタンひとつで DVD を視聴する 56
（ワンタッチ再生）
テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ 57
（システムオーディオコントロール）
テレビと同時に本機の電源を切る 58
（電源オフ連動）
本機で STB（セットトップボックス）のデジタルサウンドを楽しむ 59
（STB シンクロ）

ディスク再生―いろいろな機能

見たいところ、聞きたいところを探す 62
（スキャン / スロー再生 / コマ送り）
タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する 63
シーンで検索する 65
（ピクチャーナビ）
再生を止めたところから再生する 66
（リジューム再生）
好きな順に再生する 67
（プログラム再生）
順不同に再生する 69
（シャッフル再生）
繰り返し再生する 70
（リピート再生）
DVD に記録されているメニューを使う 72
音声を切り換える 72
DVD-R/DVD-RW の [オリジナル] または [プレイリスト] を選んで再生する 74
ディスクの情報を見る 75
アングルを切り換える 78

次のページへつづく

字幕を表示する.....78
音声と映像のずれを調節する.....79
（A/V SYNC）
MP3 音声トラックと JPEG 画像ファイルについて.....80
データ CD やデータ DVD に記録された MP3 音声トラックと JPEG 画像ファイルを再生する.....82
JPEG 画像ファイルをスライドショーとして楽しむ.....84
プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う.....87
（PBC 再生）

ラジオ

放送局を登録する.....88
（プリセット）
ラジオを聞く.....89

その他の機能

付属のリモコンでテレビを操作する.....91
デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ.....92
小さな音量で聞く.....93
（ナイトモード）
スリープタイマーを使う.....94
コントロールユニットの表示窓の明るさを調節する.....95
表示のしかたを変える.....95
（インフォメーションモード）
ソフトタッチボタンの表示のしかたを切り換える.....96
（イルミネーションモード）
デジタルメディアポートアダプターを使う.....97

詳細な設定と調整

ディスクの再生を制限する.....99
（カスタム視聴制限、視聴制限）
自動でスピーカーを設定する.....103
（自動音場補正機能）
設定画面を使う.....106
表示言語や音声言語の設定をする.....107
（言語設定）
画像に関する設定をする.....108
（画面設定）
視聴に関する設定をする.....111
（視聴設定）
スピーカーに関する設定をする.....113
（スピーカー設定）
設定項目をお買い上げ時の設定に戻す.....116

その他

ディスクの取り扱い上のご注意.....118
故障かな？と思ったら.....118
自己診断機能.....123
（コントロールユニットの表示窓に文字や数字が表れたとき）
保証書とアフターサービス.....124
主な仕様.....125
用語解説.....127
言語コード一覧表.....130
各部のなまえ.....132
設定画面項目一覧表.....137
システムメニュー項目一覧表.....138
チューナーメニュー項目一覧表.....138
索引.....139

⚠警告

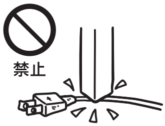


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光の当たる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

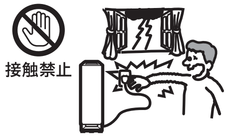
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



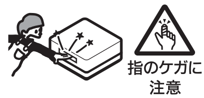
風通しの悪い所に置いたり、通気孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通気孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



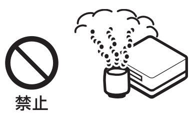
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



ディスクスロットの前に物を置かない

ディスクを取り出す際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。コントロールユニットの前に物を置かないでください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



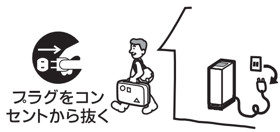
コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



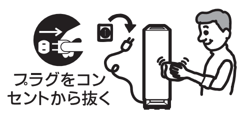
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

コントロールユニット内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

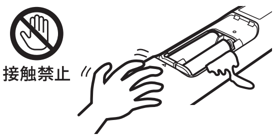
液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

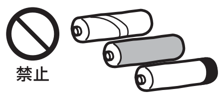
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



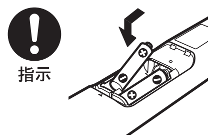
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

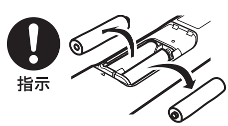
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、サブウーファー後面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。サブウーファー後面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、コントロールユニットを動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、コントロールユニット内のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスク、ディスククリーナーについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクやディスククリーナー（湿式またはスプレー式）は、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプラズマテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

輸送時のご注意

セットを輸送する場合は、メカニズムを保護するために次のとおり操作してください。

1 ≜ ボタンを押してコントロールユニットからディスクを取り出す。
コントロールユニットからディスクが取り出されているか確認してください。

2 リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットの I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切る。

3 電源プラグをコンセントから抜く。

機銘板の位置について

機銘板はコントロールユニットの底面に表示してあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえのコントロールユニットのボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書では、“DVD”を“DVDビデオ”、“DVD+RW/DVD+R”、“DVD-RW/DVD-R”の一般的な総称として使っています。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD-V	DVDビデオ/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）/DVD+R/DVD+RWで使える機能
DVD-VR	DVD-R/DVD-RW（VRモード）で使える機能
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能（スーパー VCD、ビデオCDまたはスーパー VCDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
CD	CDで使える機能（音楽用CD、または音楽用CDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
DATA-CD	データCD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むCD-ROM/CD-R/CD-RW）で使える機能
DATA DVD	データDVD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むDVD-ROM/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW）で使える機能

* MPEG 1 Audio Layer3 : MPEGと国際標準化機構（ISO）/国際電気標準会議（IEC）によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
DVD-RW*/ DVD-R*	DVD RW / DVD R R4.7
DVD+RW/ DVD+R/ DVD+R DL	RW DVD+ReWritable / RW DVD+R / RW DVD+R DL
ビデオCD（バージョン1.1/2.0）、音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD-R/CD-RW（音楽データ）（MP3音声トラック）（JPEG画像ファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc ReWritable / COMPACT disc Recordable

“DVD VIDEO”、“DVD-RW”、“DVD-R”、“DVD+RW”、“DVD+R”、“DVD+R DL”、“CD”ロゴは商標です。

＊ CPRM対応のDVD-R/DVD-RWディスクに録画した「1回だけ録画可能」な番組も再生できます。CPRM(Content Protection for Recordable Media)とは、「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術です。

ディスクについてのご注意

本機では以下のフォーマットで記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RWを再生することができます。

— 音楽用CDフォーマット

— ビデオCDフォーマット

— ISO 9660*1 レベル 1/ レベル 2、またはそれらの拡張フォーマット / Joliet / マルチセッション *2 準拠の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイル

本機では以下のフォーマットで記録されたDVD-ROM/DVD+RW/DVD-RW/DVD+R/DVD-R/DVD+R DLを再生することができます。

— UDF（Universal Disk Format）準拠のMP3音声トラック、JPEG画像ファイル

*1 ISO9660 フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定した CD-ROM の論理フォーマット。
レベル 1 からレベル 3 まで、3 段階の交換レベルを設けています。レベル 1 は、最も制限の厳しいレベルで、ファイル名は 8.3 形式（ファイル名は最大 8 文字、拡張子は最大 3 文字まで）という制約があります。レベル 2 はファイル名の長さの制約が 31 文字にまで緩和され、レベル 3 ではマルチエクステントが許容されています。

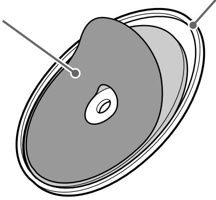
*2 マルチセッション
CD に複数のセッションで記録すること。
従来の CD が「リードイン〜データ〜リードアウト」で構成されるセッションを 1 つしか持たないのに対し、マルチセッション CD は、複数のセッションを持っています。
CD-EXTRA：第 1 セッションに音声データを、第 2 セッションにコンピュータ用のデータを収録します。

再生できないディスク、ファイルについて

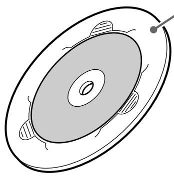
本機では次のディスク、ファイルなどを再生することはできません。

- 「再生できるディスクについて」（10ページ）にあるフォーマット以外で記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RW
- MP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含まないデータDVD
- フォトCDフォーマットで記録したCD-ROM
- CD-EXTRAのデータ部分
- DVDオーディオ

- DVD-RAM
- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVDビデオ（12、127ページ）
- スーパーオーディオCD
- MP3PROで記録されたMP3音声トラック
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク



- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使ったディスク



CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW/DVD+R DLについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW/DVD+R DLディスクを再生できます。ただし、録音に使ったレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- 終了情報を記録するファイナライズ作業を行っていないディスクは再生できません。
- パケットライト方式で作成されたディスクは再生できないことがあります。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DualDisc（デュアルディスク）ご使用においてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback（プレイバック） Control（コントロール）の略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、87 ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

次のページへつづく

マルチセッションCDについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDビデオのパッケージには地域番号が表示されています。
地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。

DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

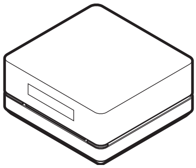
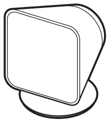
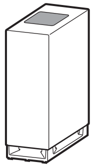
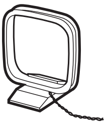
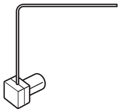
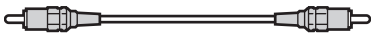
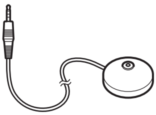
本機はドルビー *1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 DTS, Inc. からの実施権に基づき製造されています。DTS および DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。

本製品の日本語表示には、株式会社リコー所有の文字フォントを使用しています。

同梱物を確認する

次の同梱物がそろっているかを確認してください。

<table>
<tr><td colspan="4">コントロールユニット（1個）
</td><td colspan="4">スピーカー（5個）
</td><td colspan="4">サブウーファー（1個）
</td></tr>
<tr><td colspan="3">AMループアンテナ（1個）
</td><td colspan="3">FMワイヤーアンテナ（1個）
</td><td colspan="3">映像コード（1本）
</td><td colspan="3">測定マイク（1個）
</td></tr>
<tr><td colspan="3">リモコン（1個）
</td><td colspan="3">単3乾電池（R6）（2個）
</td><td colspan="3">壁かけ金具（5個）
</td><td colspan="3">レンチ（1個）
</td></tr>
<tr><td colspan="3">取扱説明書（1冊）</td><td colspan="3">クイックスタートガイド
（1枚）</td><td colspan="3">ソニーご相談窓口のご案内
（1枚）</td><td colspan="3">保証書（1枚）</td></tr>
</table>

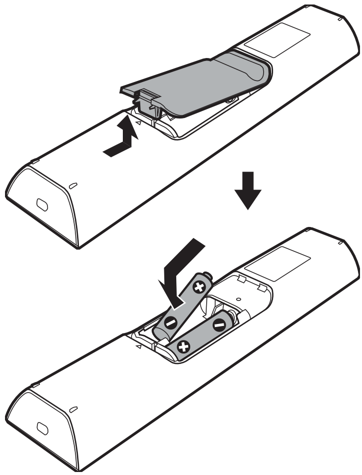
同梱物がそろっていないときは、お手数ですがお買い上げ店にご連絡ください。

次のページへつづく

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。⊕と⊖の向きを合わせて、単3乾電池（R6、付属）2個を入れてください。

本機を操作するときは、コントロールユニットのリモコン受光部（132ページ）にリモコンを向けて操作してください。



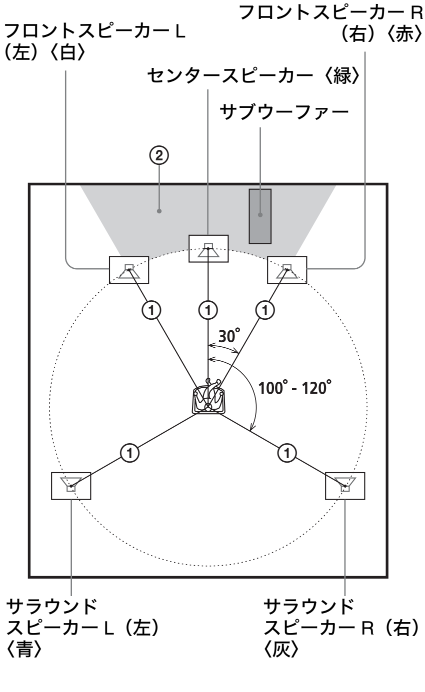
ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  - 新しい乾電池と使用途中の乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、手に液をつけないように注意して電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

手順1：スピーカーを設置する

サラウンド効果を充分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください（①)。サブウーファーは（②）の範囲で設置することをおすすめします。

以下のように設置します。

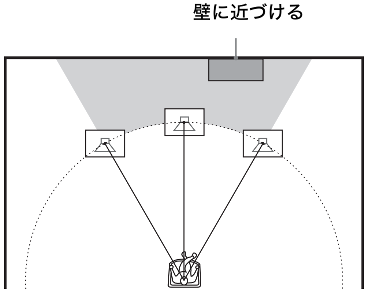


ちょっと一言

- サブウーファーはリスニングポジションから見て、縦向き横向きのどちらでも設置することができます。
- スピーカーを設置するときに、スピーカーが動いてしまう場合があります。このようなときは市販のワイヤークランパーや市販のテープなどを使い、スピーカーコードを固定してください。

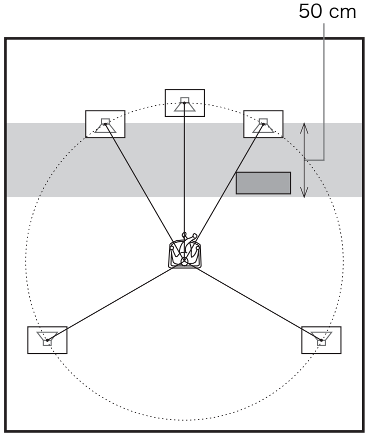
サブウーファーを効果的に使う

音声の低域の効果を得るには、サブウーファーをできる限り壁に近づけて設置してください。



ご注意

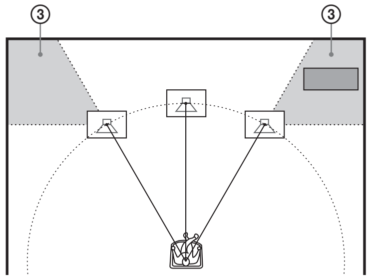
- サブウーファーをフロントスピーカーの前に置く場合は、50 cm以内に置いてください。



接続と設定―基本編

次のページへつづく

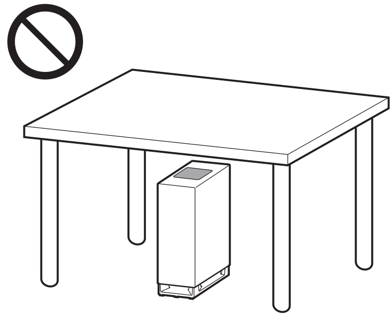
• サブウーファーを外側（③）に置くと音声の低域が効果的に得られない場合があります。リスニングポジションからの距離の設定が必要になります。

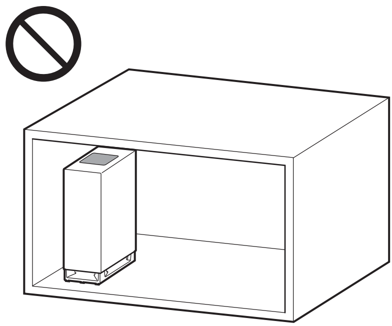


• サブウーファー上部にものを置かないでください。

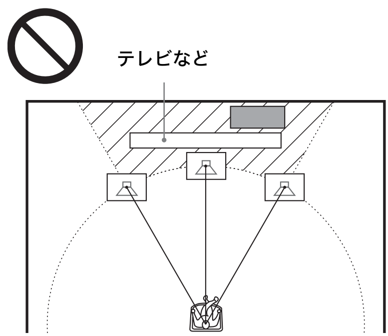


• サブウーファーを机の下やキャビネットの中などに置かないでください。





• テレビなど障害物となるものの後ろにサブウーファーを置かないでください。



ご注意

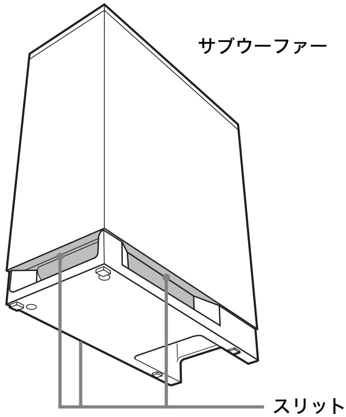
- スピーカーを以下のような場所には置かないでください。
  - 傾いた所。
  - 極端に温度が高い所または低い所。
  - ほこりの多い所。
  - 湿気の多い所。
  - 不安定な台の上など。
  - 直射日光が当たる所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーやスピーカーを取り付けたスピーカースタンド（別売り）を置くときは注意してください。床に変色、染みなどが残ることがあります。
- サブウーファーの位置によりテレビ画面に色むらが起きる場合があります。このようなときは、サブウーファーをテレビから離してください。

ちょっと一言

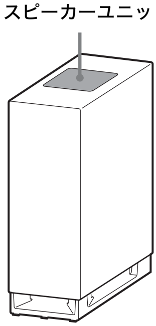
- スピーカーの配置を変えた場合、設定の変更をおすすめします。詳しくは「自動でスピーカーを設定する」（103ページ）をご覧ください。

サブウーファーの取り扱いについてのご注意

- スリットに手を入れて持たないでください。内部のスピーカーユニットに手が触れ、ユニットを傷めるおそれがあります。サブウーファーを持つときは、底を持ってください。

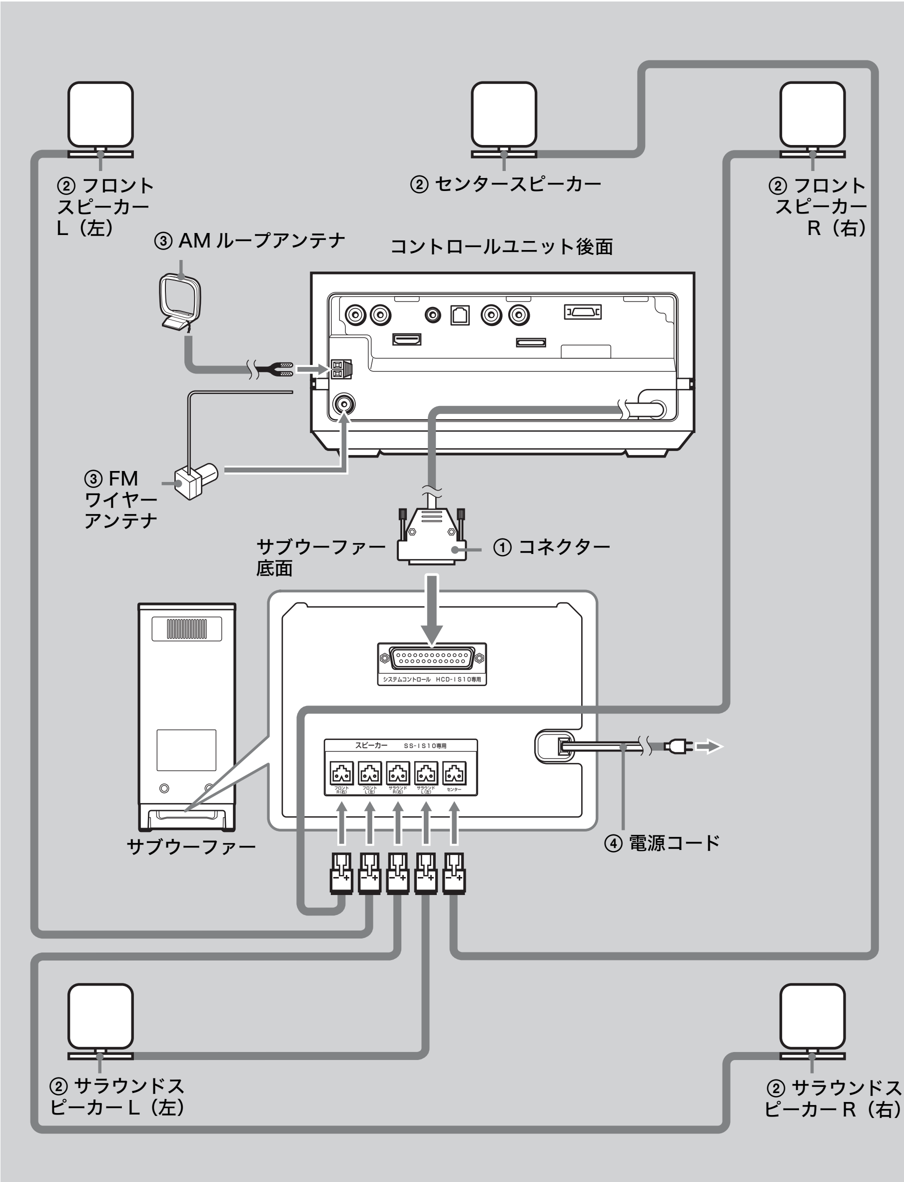


- スピーカーユニットが搭載されているため、サブウーファー上部を押さないでください。



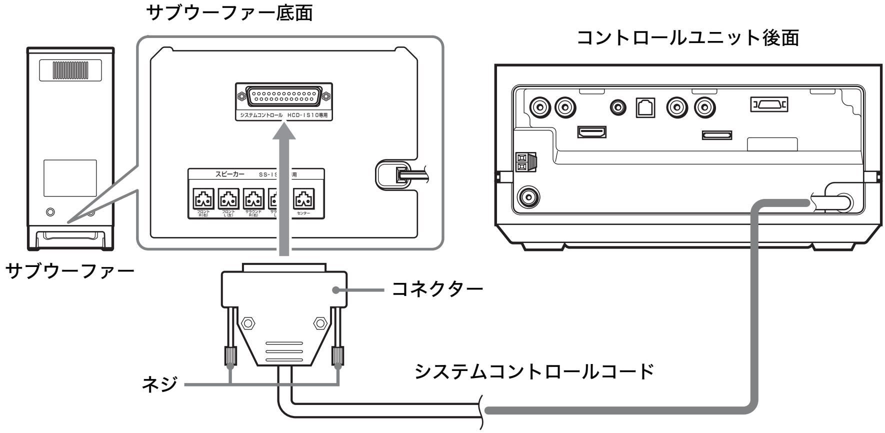
手順2：本機をつなぐ

下記は本機の基本的な接続図です。次ページの①〜④もあわせてお読みください。



①コントロールユニットをつなぐ

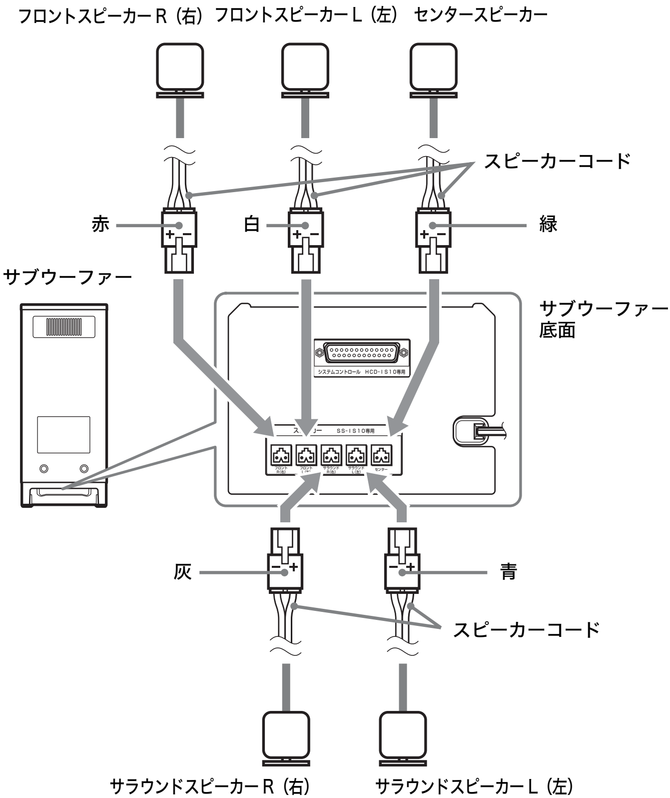
コントロールユニットのシステムコントロールコードを、サブウーファーのシステムコントロール端子につなぎます。
システムコントロールコードのコネクターを差し込んでから、ネジを締めて固定します。



次のページへつづく

②スピーカーをつなぐ

スピーカーコードのコネクターを、コネクターと同じ色のスピーカー端子につなぎます。



③アンテナをつなぐ

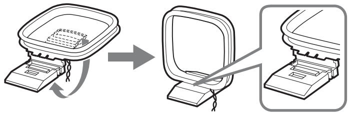
AMアンテナをつなぐには

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（～～～）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

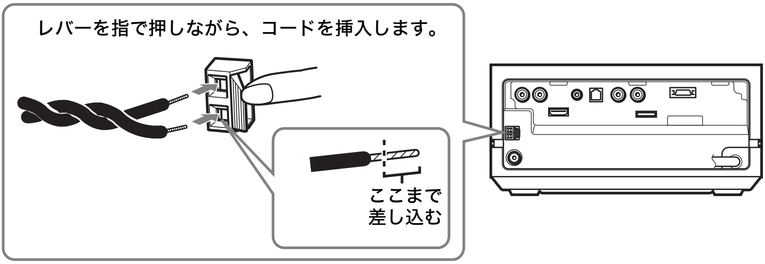
2 組み立てる。

台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

コードはどちらの端子にもつなぐことができます。



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

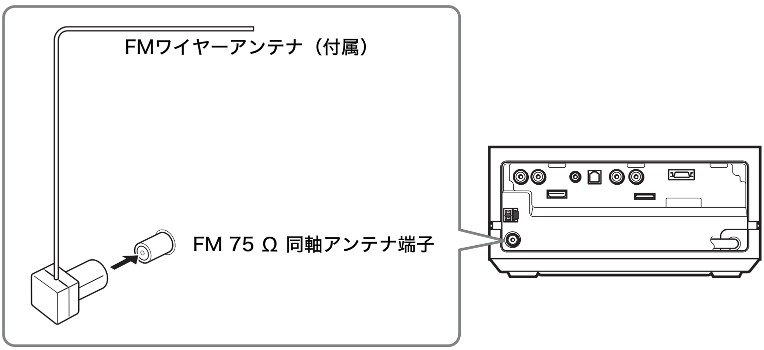
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMワイヤーアンテナをつなぐには

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。



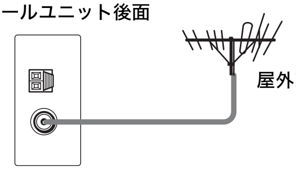
次のページへつづく

ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

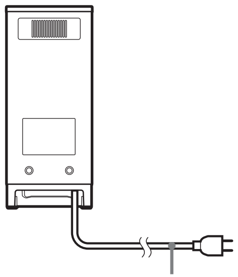
ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



④電源コードをつなぐ

すべてのスピーカーをつないでから（18ページ）、サブウーファーの電源コードを壁のコンセントにつないでください。

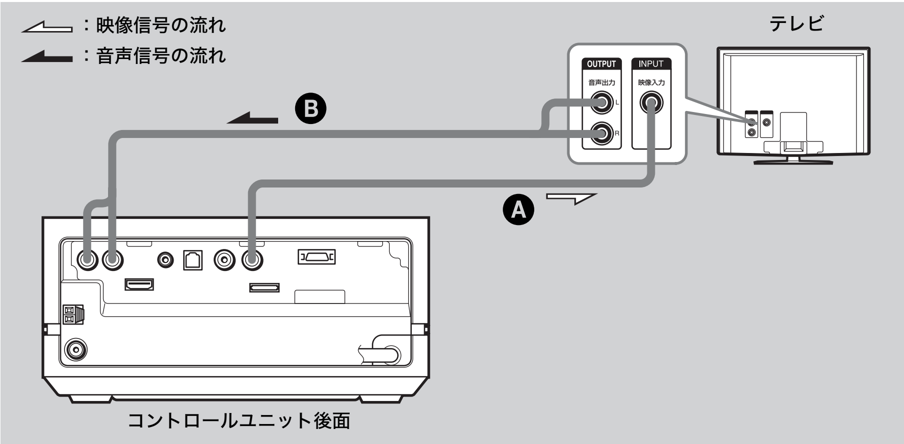


ご注意

- 電源コードをつないで約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。
- 本機は、コンセントの近くでお使いください。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源コードを抜き、電源を遮断してください。

手順3：テレビをつなぐ

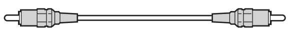
下記はコントロールユニットとテレビの基本的な接続図です。
下記以外のテレビの接続については27ページをご覧ください。その他の機器の接続については30ページをご覧ください。



必要な接続コード

Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ

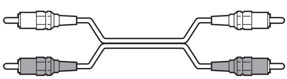
映像コード（付属）を使って、テレビの映像入力端子とコントロールユニットの映像出力（映像）端子をつなぎます。



黄（映像）

Ⓑ 音声出力端子のあるテレビにつなぐ

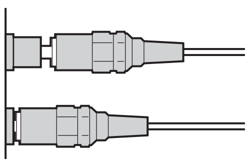
ステレオ音声コード（別売り）を使って、テレビの音声出力端子とコントロールユニットのTV（音声入力）端子をつなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。



白（左/音声）
赤（右/音声）

ご注意

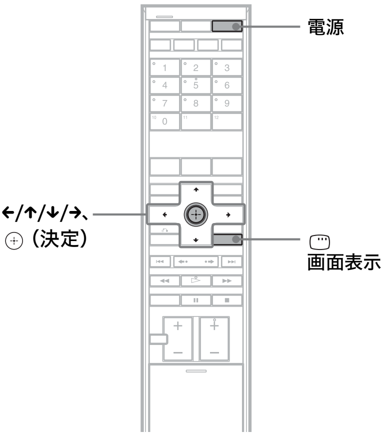
- AAC（92ページ）を楽しむには本機とテレビをデジタル接続する必要があります（29ページ）。
- コードをつなぐとき、プラグは根元までしっかり差し込んでください。



誤
正

手順4：クイック設定をする

本機を使うために必要な設定を行います。
リモコンはコントロールユニットのリモコン受光部（132ページ）に向けて操作します。



1 テレビの電源を入れる。

2 リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。

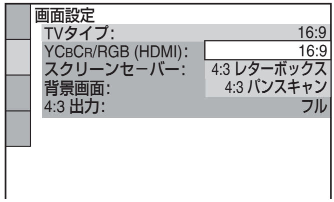
本機の電源が入ります。

3 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

テレビ画面の下部に[クイック設定するには[決定]を押してください]のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されないときは、クイック設定画面を表示させてください（26ページ）。

4 ディスクを入れない状態で⊕（決定）を押す。

つないだテレビの縦横比の設定画面がテレビに表示されます。



5 ↑/↓で本機につないだテレビ画面の縦横比を選ぶ。

■ ワイドスクリーンタイプのテレビ、またはワイドスクリーンモードのある4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

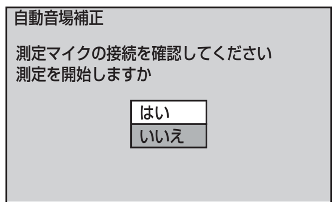
[16:9]を選びます（108ページ）。

■ 4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

[4:3レターボックス]または[4:3パンスキャン]を選びます（108ページ）。

6 ⊕（決定）を押す。

[自動音場補正]の設定画面が表示されます。

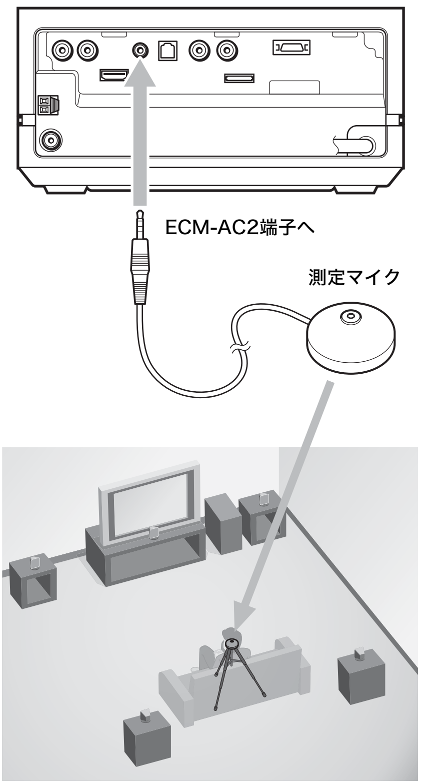


7 コントロールユニット後面のECM-AC2端子に測定マイクをつなぎ、視聴する位置で耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定する。

スピーカーと測定マイクの間に障害物などがないようにしてください。

ご注意

- ECM-AC2端子は付属の測定マイク以外をつながないでください。



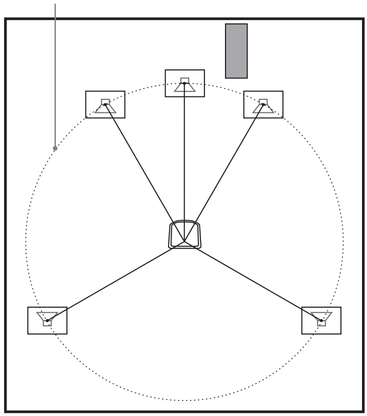
8 ↑/↓で[はい]を選び、⊕（決定）を押す。

[自動音場補正]が始まります。

測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。測定音の音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。



9 測定マイクを抜き、←/→ で[はい]を選ぶ。

測定が終了しました

フロント L :	4.87m	0.0dB
フロント R :	4.87m	0.0dB
センター :	4.87m	+ 1.0dB
サブウーファー :	4.87m	+ 4.0dB
サラウンド L :	3.04m	− 2.0dB
サラウンド R :	3.04m	− 2.0dB

この測定結果でよい場合は測定マイクを抜いて「はい」を選択してください

はい　いいえ

ご注意

- 壁や床の反響が測定に影響を与える場合があります。
- 測定が失敗したときは画面にしたがって[自動音場補正]を再度行ってください。

次のページへつづく

10 ⊕（決定）を押す。

クイック設定は完了しました。すべての接続と設定作業は完了です。

クイック設定をやめるには

画面表示ボタンを押す。

ちょっと一言

- [自動音場補正]をキャンセルしたときは「スピーカーに関する設定をする」（113ページ）でスピーカーの設定を行ってください。
- スピーカーの設置場所を変更したときは、スピーカー設定を再度行ってください。詳しくは「自動でスピーカーを設定する」（103ページ）をご覧ください。
- 設定を変更したいときは、「設定画面を使う」（106ページ）をご覧ください。
- [自動音場補正]のエラー表示について詳細は「エラーが出たときは」（105ページ）をご覧ください。

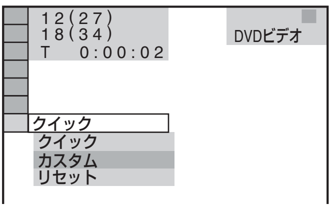
クイック設定の画面を呼び出すには

1 ディスクの再生中は、■ボタンを押して再生を止めてから、画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で [設定]を選び、⊕（決定）を押す。

[設定]の項目が表示されます。



3 ↑/↓ で[クイック]を選び、⊕（決定）を押す。

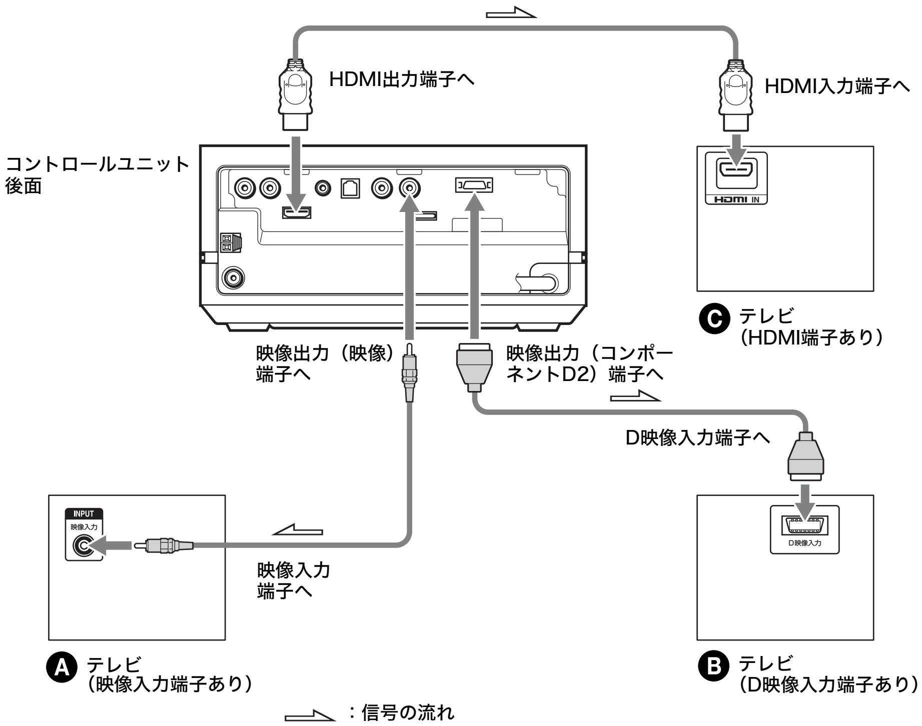
クイック設定画面が表示されます。

テレビをつなぐ（応用編）

本機とテレビの接続は、お使いのテレビの端子に合わせてコードを選んでください。

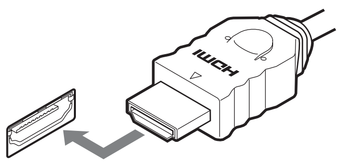
映像コード、D映像コード、HDMIケーブルをつなぐ

再生されたDVDの映像をつないだテレビに送ります。
お持ちのテレビの端子に合わせて、下のA、B、Cの方法から選ぶことができます。
A→Cとなるにつれて高画質になります。



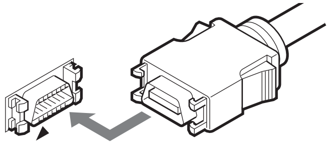
ご注意

- ケーブルをつなぐときは、端子の形状を確認したうえ、端子の向きが同じか確認してください。
  ー HDMI端子にケーブルをつなぐ場合



次のページへつづく

－ D2端子にケーブルをつなぐ場合



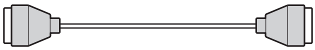
Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ

映像コードをつなぎます。



Ⓑ D映像入力端子のあるテレビにつなぐ

D映像コード（別売り）を使って、テレビのD映像入力端子と、本機の映像出力（コンポーネントD2）端子をつなぎます。プログレッシブ方式に対応したテレビとつないだときは、本機をプログレッシブ出力に設定して高画質な映像を楽しむことができます（110ページ）。

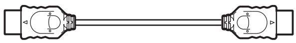


Ⓒ HDMI/DVI入力端子のあるテレビにつなぐ

HDMIケーブル（別売り）を使って、テレビのHDMI入力端子と、本機のHDMI出力端子をつなぎます。デジタル信号により高精細映像と音声を楽しむことができます。

テレビにDVI入力端子がある場合、HDMI/DVIコンバーターケーブル（別売り）を使ってテレビとつなぐことはできますが、その場合テレビは音声信号を受け取れません。

また、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に準拠していないDVI対応機器にはつなぐことができません。

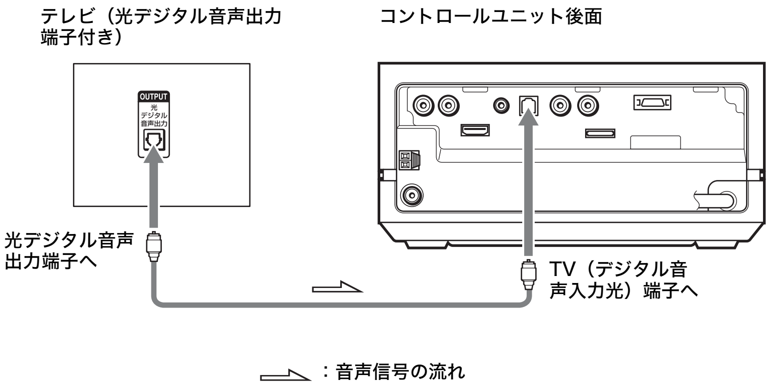


HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

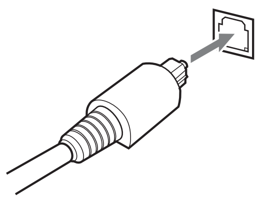
光デジタル音声出力端子のあるテレビにつなぐ

テレビの音声を本機のスピーカーから高音質で聞くことができます。
また、AAC（92ページ）を楽しむにはこの接続を行ってください。
本機はデジタルとアナログの両方の信号を受信できます。デジタル信号（TV（デジタル音声入力光）端子）はアナログ信号（TV（音声入力）端子）より優先されます。デジタルとアナログが両方つながれている際に、デジタル信号が途切れた場合、数秒後にアナログ信号が入力されます。



ご注意

- 光デジタルコードをつなぐときは、下図の向きでカチッと音がするまで差し込んでください。



- 光デジタルコードでつなぐとき、お使いのテレビがすべての音声を出力しない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 光デジタルコードでつなぐとき、つなぐテレビ側で音声出力に関する設定が必要な場合があります。つなぐテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

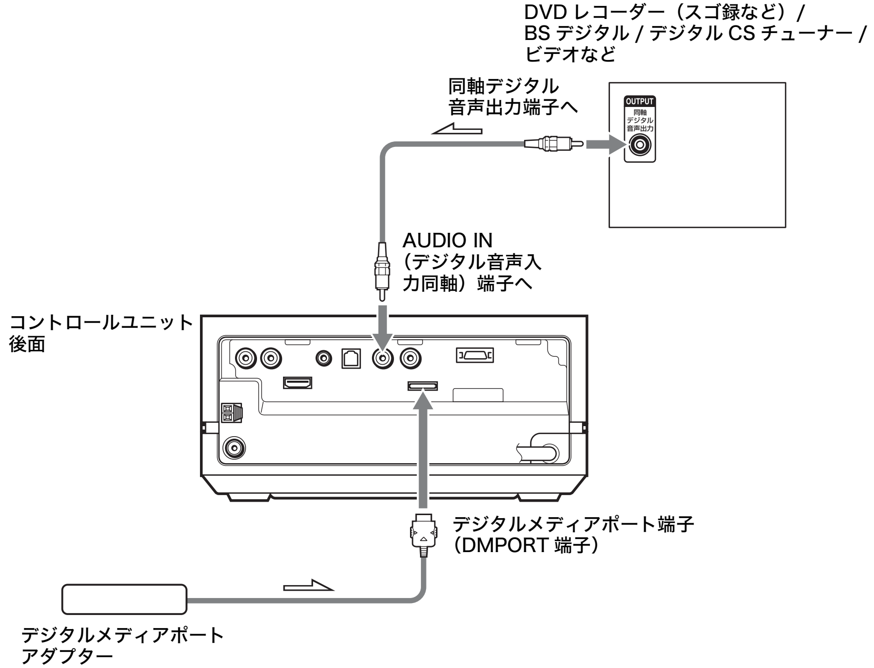
ちょっと一言

- 実際にテレビの音声を聞くには、ファンクションを「TV」に切り換える必要があります。詳しくは42ページをご覧ください。
- 本機のデジタル入力は、BSデジタル放送などのMPEG-2 AACに対応しています。AACを楽しむには「デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ」（92ページ）をご覧ください。

その他の機器をつなぐ

お使いのさまざまな機器を本機につないで、音声を本機のスピーカーから聞くことができます。

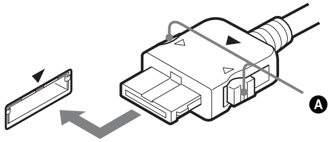
DVDレコーダー（スゴ録など）/BSデジタル/デジタルCSチューナー /ビデオやデジタルメディアポートアダプター*などをつなぐ



＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ご注意

- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターをつないだり、抜いたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼マークの向きを合わせてください。
- 取りはずすときは、Ⓐを押しながらはずしてください。



ちょっと一言

- 「TV」ファンクションと「AUDIO IN」ファンクションに応じてデジタル音声の入力を割り当てることができます。詳しくは、[デジタル音声入力]（112ページ）をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプター*をつなぐ

デジタルメディアポートアダプター（別売り）をデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につなぎます。デジタルメディアポートアダプターについて詳しくは、「デジタルメディアポートアダプター*を使う」（97ページ）をご覧ください。

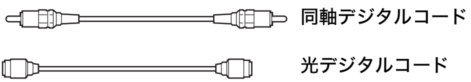
* デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

デジタル音声出力（光/同軸）端子のある機器とつなぐ

デジタル音声出力（光/同軸）端子のある機器と本機をTV（デジタル音声入力光）端子、またはAUDIO IN（デジタル音声入力同軸）端子につなぐことができます。

TV（デジタル音声入力光）端子につなぐ場合は光デジタルコード（別売り）、AUDIO IN（デジタル音声入力同軸）端子につなぐ場合は同軸デジタルコード（別売り）を使います。

本機はデジタルとアナログの両方の信号を受信できます。デジタル信号はアナログ信号より優先されます。デジタルとアナログが両方つながれている際に、デジタル信号が途切れた場合、数秒後にアナログ信号が入力されます。



ご注意

- ハム音やノイズを防ぐために、プラグはしっかりと差し込んでください。

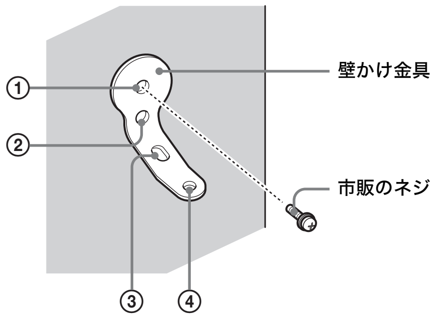
スピーカーを壁に取り付ける

壁かけ金具を使って、スピーカーを壁に取り付けることができます。

スピーカーを壁に取り付ける

1 **壁かけ金具の①の穴径に合う市販のネジを用意する。**

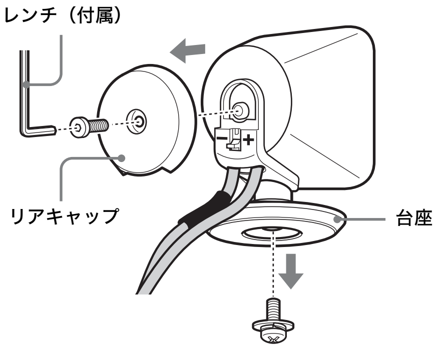
2 **①の穴にネジを通し、壁かけ金具を取りつける。**



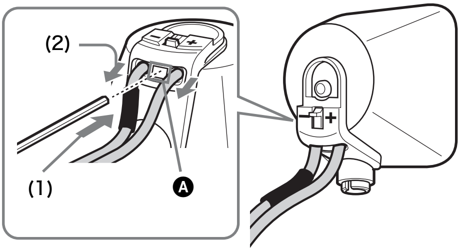
ちょっと一言

- ②の穴もネジで固定すると、スピーカーがより固定されます。

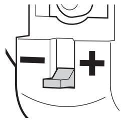
3 **付属のレンチでリアキャップをはずし、プラスドライバーでスピーカーの台座を取りはずす。**



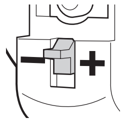
4 Ⓐを付属のレンチで押し(1)、スピーカーコードを取りはずす(2)。



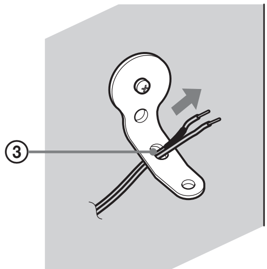
レバーが下がっているとき、スピーカーコードはロックされています。



レバーが上がっているとき、スピーカーコードは取りはずせます。

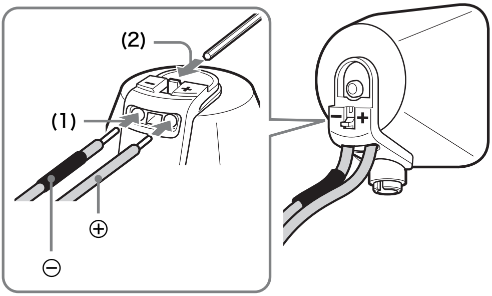


5 スピーカーコードを③の穴に通す。



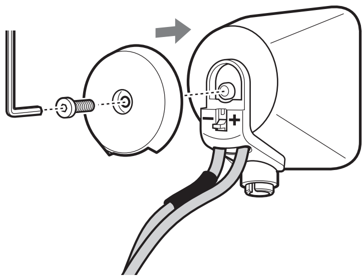
次のページへつづく

6 取りはずしたスピーカーコードを⊕/⊖極に合わせてスピーカー端子に挿入し(1)、レバーをしっかりと下げる(2)。

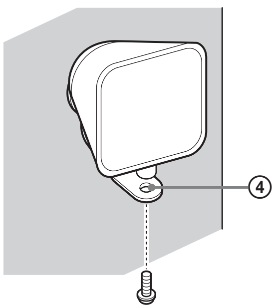


ちょっと一言
- レバーを下げにくい場合は、付属のレンチを使ってください。

7 付属のレンチでスピーカーのリアキャップを取り付ける。



8 手順3ではずしたネジを使い、④の穴から金具とスピーカーを固定する。

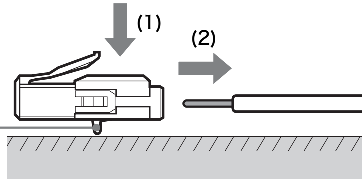


ご注意

- 壁の材質や強度に合ったネジをお使いください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は責任を負いません。

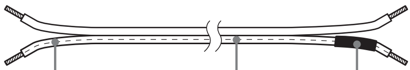
ちょっと一言

- スピーカーコードはコネクターから取りはずすことができます。突起を下に向け、コネクターを平らな場所に押し当てながら(1)、スピーカーコードを抜きます(2)。



ご注意

- スピーカーコードをコネクターにつなぎなおすときは、スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて⊕は＋どうし、⊖は－どうしでつなぎます。白い文字や線が入っている（片側の端に黒いチューブがついている）コードを－につないでください。極性を間違えると、低音が不足したり、正しい音声が出ません。



スピーカーのショートを防止する

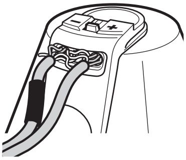
スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。

ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに充分注意してください。

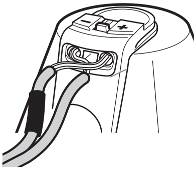
スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例

スピーカーコードの先端が
他のコードと接触している。



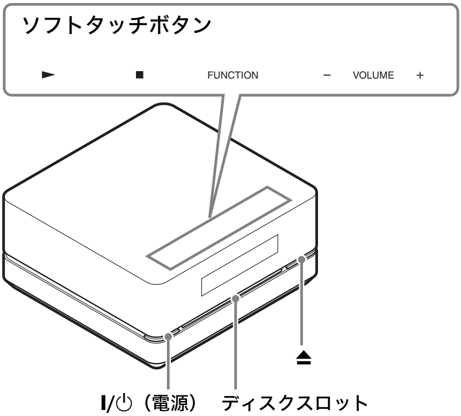
スピーカーコードの先端が
端子から大幅にはみ出し、
他のコードと接触している。

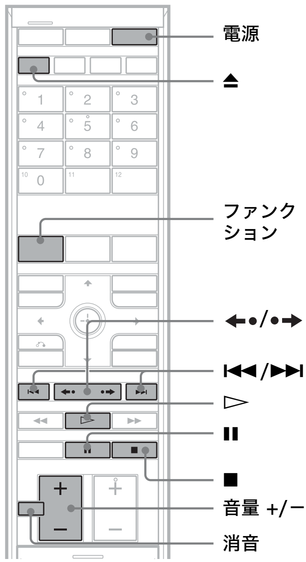


ディスクを再生する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

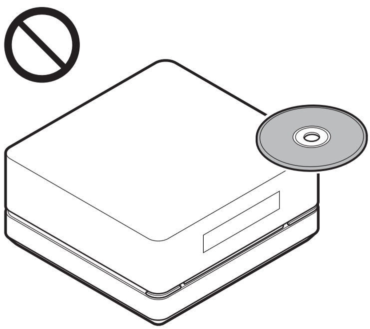
再生するDVDビデオ、ビデオCDの種類によっては、操作が違ったり、禁止されている操作があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。





ご注意

- ソフトタッチボタンは軽く触れるだけで作動します。強く押さないようにしてください。
- コントロールユニットの上に物を置かないでください。物を置くと、ソフトタッチボタンが反応したり、コントロールユニットのボタンが反応しなくなったりします。



ちょっと一言

- ソフトタッチボタンは点灯中に操作できます。
- コントロールユニット上面のソフトタッチボタンの表示のしかたを変えることができます（96ページ）。

1 テレビの電源を入れる。

2 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

3 リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。

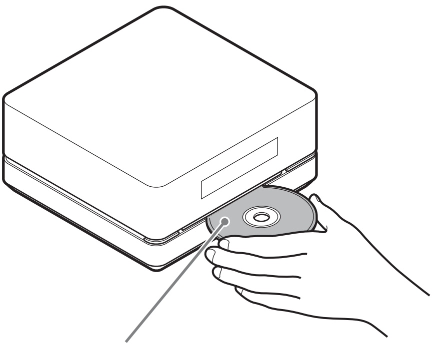
本機の電源が入ります。
ファンクションが「DVD」ではないときは、コントロールユニットの表示窓に「DVD」と表示されるまでリモコンのファンクションボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（ソフトタッチボタン）を繰り返し押してください。
コントロールユニットの表示窓に「No Disc」が表示されると、ディスクを入れる準備が整います。

ご注意

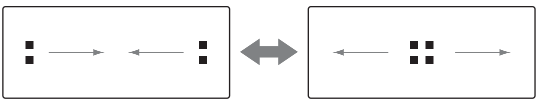
- 「No Disc」が表示される前にディスクを入れないでください。

4 ディスクを入れる。

自動的にディスクが引き込まれるまでディスクを押し込んでください。



ディスクが自動的に引き込まれ、コントロールユニットの表示窓に以下のように表示されます。



5 リモコンの▷ またはコントロールユニットの►（ソフトタッチボタン）を押す。

再生が始まります。

次のページへつづく

リモコンの音量＋/－ボタンやコントロールユニットのVOLUME＋/－ボタン（ソフトタッチボタン）で音量を調節してください。

ちょっと一言

- 音量を調節する早さを変えることができます。
  早く調節するには：
  - リモコンの音量＋/－ボタンを長押しする。
  - コントロールユニットのVOLUME＋/－ボタン（ソフトタッチボタン）に触れて「VOLUME XX」（Xは数字）を表示させている間に、もう一度VOLUME＋/－ボタンに長く触れたままにする。

  少しずつ音量を調整するには：
  - リモコンの音量＋/－ボタンを短く押す。
  - コントロールユニットのVOLUME＋/－ボタン（ソフトタッチボタン）に短く触れる。
- 本機とテレビをHDMIケーブルでつないでいるときは、HDMIコントロールを使って操作を簡単にすることができます。詳しくは52ページをご覧ください。

ご注意

- HDMIコントロールが働いているとき、HDMIケーブルでコントロールユニットにつないでいるテレビが本機と同期して動作する場合があります。詳しくは52ページをご覧ください。

省電力モード（スタンバイモード）にするには

リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。省電力モードを解除するときは、もう一度リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。

ご注意

- 本機の電源が入っていないときに、コントロールユニットにディスクを入れないでください。

いろいろな操作のしかた

こんなときは	操作
止める	■を押す
一時停止する	❚❚を押す
一時停止したあと、つづきを再生する	リモコンの❚❚/▷を押す。またはコントロールユニットの▶に触れる
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶❚を押す（JPEG画像ファイルは除く）
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	❚◀◀を押す（JPEG画像ファイルは除く）
消音する	消音ボタンを押す。消音をキャンセルするには、もう一度消音ボタンを押すか、音量+ボタンで音量を上げる
ディスクを取り出す	⏏を押す
少し前のシーンに戻す*	再生中に←● を押す
少し先のシーンに進める**	再生中に●→ を押す

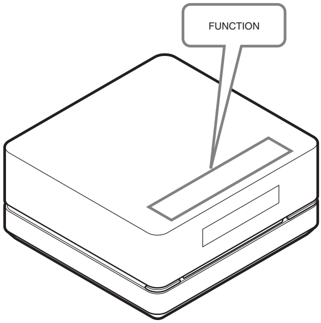
* DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R のみ。
** DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R のみ。

ご注意

- シーンによっては ←● や ●→ が使えない場合があります。

ラジオやつないだ機器の音を楽しむ

つないだ機器を選ぶ





1　リモコンのファンクションボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（ソフトタッチボタン）を繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に再生したいものを表示させる。

リモコンのファンクションボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（ソフトタッチボタン）を押すたびに、ファンクションは以下の順番で切り換わります。

DVD → FM → AM → TV → AUDIO IN → DMPORT → DVD → ....

選ぶファンクション	再生したい機器
FMまたはAM	本機に内蔵されているラジオ（20、88ページ）
TV	テレビ（23、27ページ）
AUDIO IN	DVDレコーダー（スゴ録など）、BSデジタル/デジタルCSチューナー /ビデオなど（30ページ）
DMPORT	デジタルメディアポートアダプター*に対応した機器

＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

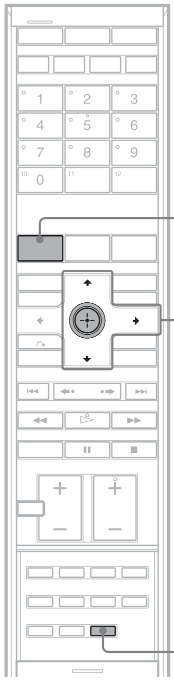
2　つないだ機器の電源を入れて、再生する。

次のページへつづく

ちょっと一言
- 「TV」ファンクションと「AUDIO IN」ファンクションに応じてデジタル音声の入力を割り当てることができます。詳しくは、「デジタル音声入力」（112ページ）をご覧ください。

つないだ機器からの入力レベルを変える

コントロールユニットのTV（音声入力）につないだ機器の音を聞く場合、音が歪む場合がありますが、故障ではありません。このような症状を防ぐため、つないだ機器からの入力レベルを変更します。



カバーを開けた状態

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV」を表示させる。

2 システムメニューボタンを押す。

3 ↑/↓で表示窓に「ATTENUATE（アッテネート）」を表示させてから、⊕（決定）または→を押す。

4 ↑/↓でコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- 「ATT ON」（アッテネートオン）
  本機への入力レベルを下げます。音がひずむ場合はこの設定にしてください。
- 「ATT OFF」（アッテネートオフ）
  通常の入力レベルです。他のファンクションに比べて音量が小さいとき、この設定にしてください。

5 ⊕（決定）を押す。

手順4で選んだ項目が設定されます。

6 システムメニューボタンを押す。

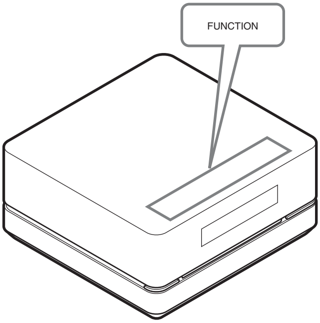
システムメニューを終了します。

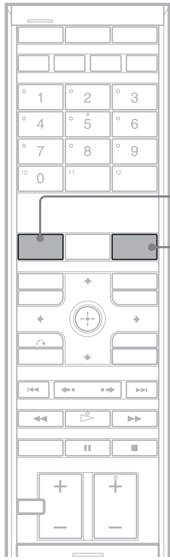
ちょっと一言

- 「ATTENUATE」はファンクションが「TV」のときのみ表示されます。

テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ

本機のスピーカーでテレビやビデオの音声を楽しめます。
接続については「手順3：テレビをつなぐ」（23ページ）、「テレビをつなぐ（応用編）」（27ページ）、「その他の機器をつなぐ」（30ページ）をご覧ください。





1 **リモコンのファンクションボタンまたはコントロールユニットのFUNCTIONボタン（ソフトタッチボタン）を繰り返し押して、本体の表示窓に「TV」または「AUDIO IN」を表示させる。**

2 **テレビやビデオの電源を入れる。**

3 **サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドをコントロールユニットの表示窓に表示させる。**

テレビやビデオの音声を6つのスピーカーから出力したいときは、サウンドフィールドの「PL II MOVIE」、または「PL II MUSIC」を選んでください。サウンドフィールドについて詳しくは49ページをご覧ください。

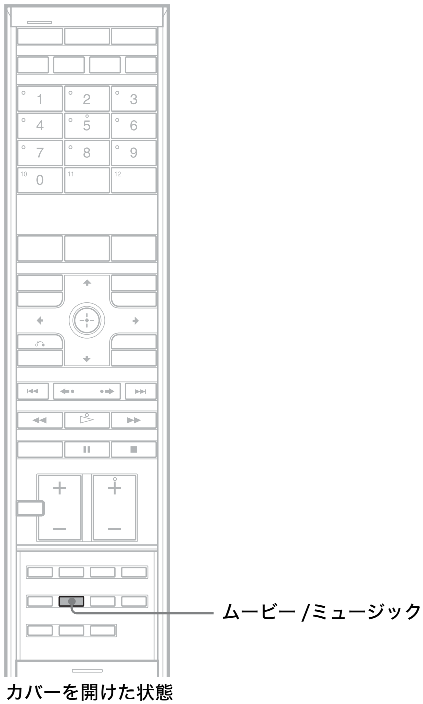
ちょっと一言

- ［視聴設定］の［HDMIコントロール］の［入］を設定すると（111ページ）、システムオーディオコントロール機能が作動して、音声がテレビから出力されない場合があります。詳しくは57ページをご覧ください。
- TV（音声入力）端子（アナログ接続）とTV（デジタル音声入力光）端子（デジタル接続）の両方を同時につなぐ場合は、デジタル接続入力が優先されます。

サウンド効果を選ぶ

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

映画や音楽など再生するディスクに合ったサウンド効果が楽しめます。



再生中にムービー /ミュージックボタンを押す。

ムービー /ミュージックボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みのモードを点灯させます。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- 「AUTO」（オートモード）
  再生するディスクに合わせたサウンド効果を自動的に選びます。
- 「MOVIE」（ムービーモード）
  映画を楽しむのに適しています。
- 「MUSIC」（ミュージックモード）
  音楽を楽しむのに適しています。

ちょっと一言

- ムービーモードやミュージックモードを選んだときは、コントロールユニットの表示窓に「MOVIE」または「MUSIC」が点灯します。「MOVIE」または「MUSIC」が点灯していない場合は、「AUTO」（オートモード）が選択されています。

ご注意

- 再生するディスクによっては、オートモードを選んだときに最適なモードが自動的に選択されるため、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、ムービーモードまたはミュージックモードを選んでください。

コントロールメニュー画面の見かた



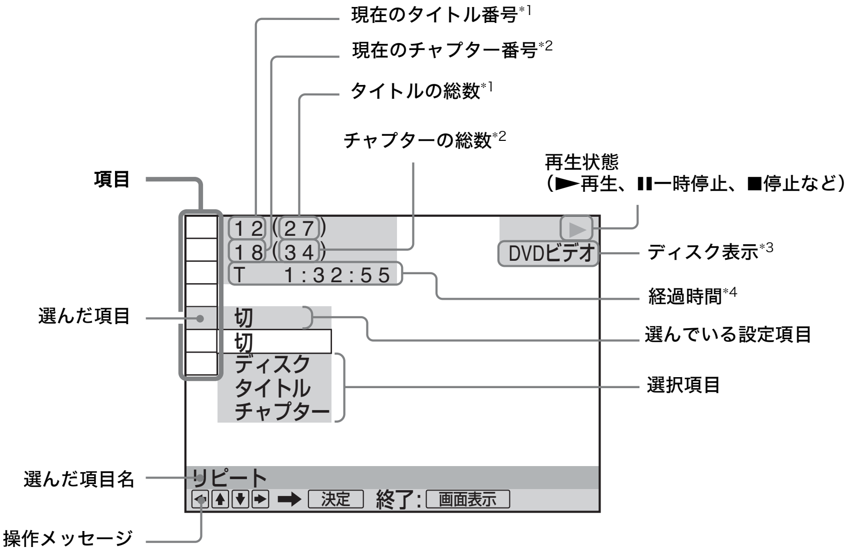
テレビに表示されるコントロールメニュー画面を使って、ファンクションを選んだり、関連する情報を選んだりします。画面表示ボタンを繰り返し押すと、テレビの表示は以下のように切り換わります。

→コントロールメニュー画面　1
↓
コントロールメニュー画面　2（特定のディスクのみ表示）
↓
コントロールメニュー画面　切

コントロールメニュー画面表示

コントロールメニュー画面1、2はディスクの種類によって表示される項目が違います。詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

例：DVDビデオ再生中のコントロールメニュー画面1



*1 PBC 再生時のビデオ CD のシーン、ビデオ CD/CD のトラック、データ CD/ データ DVD のアルバムを表示します。
*2 ビデオ CD のインデックス、データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイルを表示します。
*3 スーパー VCD は SVCD と表示します。データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラックは MP3 ディスクとしてコントロールメニュー画面 1、JPEG 画像ファイルは JPEG ディスクとしてコントロールメニュー画面 2 に表示します。
*4 JPEG 画像ファイルの場合は、コントロールメニュー画面 2 に日付を表示します。

コントロールメニュー画面表示を消すには

画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	項目名、機能、可能なディスクの種類
	［タイトル］（63 ページ）/［シーン］（63 ページ）/［トラック］（63 ページ） 再生するタイトル、シーン、トラックを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	［チャプター］（63 ページ）/［インデックス］（63 ページ） 再生するチャプター、インデックスを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	［トラック］（63 ページ） 再生するトラックを選びます。 CD DATA-CD DATA DVD
	［オリジナル / プレイリスト］（74 ページ） 再生するタイトルの種類、オリジナルのタイトルあるいは編集して作成されたプレイリストを選びます。 DVD-VR

次のページへつづく

	[時間 / テキスト]（63 ページ） 経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します。DVD や CD のテキスト、MP3 音声トラック名を表示します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[自動音場補正]（103 ページ） 自動でスピーカーを設定します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[プログラム]（67 ページ） トラックを選んで好きな順に再生します。 VIDEO CD CD
	[シャッフル]（69 ページ） トラックをランダム (無作為) な順番で再生します。 VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[リピート]（70 ページ） ディスク全体 (全タイトル / 全トラック / 全アルバム) または 1 つのタイトル / チャプター / トラック / アルバムを繰り返し再生します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[視聴制限]（99 ページ） 特定のディスクやシーンの再生を禁止する設定をします。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[設定]（106 ページ） [クイック]セットアップ（24ページ） つないだテレビに合う画面の縦横比や［自動音場補正]開始の選択を行います。 [カスタム]セットアップ クイックセットアップに加えて、さまざまな設定をします。 [リセット] クイックセットアップ、カスタムセットアップでの設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[アルバム]（63 ページ） 再生するアルバムを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[ファイル]（63 ページ） 再生する JPEG 画像ファイルを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[日付]（77 ページ） JPEG 画像ファイルが撮影された日付を表示します。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド送り時間]（84 ページ） スライドショーの表示する間隔を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド効果]（84 ページ） スライドショーの表示が変わるときの効果を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[音声映像選択モード]（84 ページ） データ CD/ データ DVD を再生するときに、再生するデータの種類：MP3 音声トラック (音声)、JPEG 画像ファイル (映像)、または両方 (自動) を選びます。 DATA-CD DATA DVD

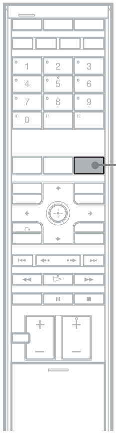
ちょっと一言

- コントロールメニュー画面のアイコンは、[切]以外を選んでいるときは緑に点灯します → ([プログラム]、[シャッフル]、[リピート]のみ)。[オリジナル/プレイリスト]アイコンは、[プレイリスト]を選んでいるときに緑に点灯します。

サラウンドを楽しむ

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。



サウンドフィールドボタンを押す。

サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みのサウンドフィールドを表示させます。

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT STANDARD	A.F.D. STD
AUTO FORMAT DIRECT MULTI	A.F.D. MULTI
Dolby Pro Logic II MOVIE	PLII MOVIE
Dolby Pro Logic II MUSIC	PLII MUSIC
PORTABLE AUDIO ENHANCER	P. AUDIO
OMNI-DIRECTIONAL SOUND	OMNI-DIR

入力された音声をそのまま再生する

■ AUTO FORMAT DIRECT STANDARD（オートフォーマットダイレクトスタンダード）

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何も音場効果（残響音など）を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。

また、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合も、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

複数のスピーカーから音声を出力する

■ AUTO FORMAT DIRECT MULTI（オートフォーマットダイレクトマルチ）

ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。

ご注意

- ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。
- 再生するディスクによっては、最適な効果を自動的に選択するため、音声の始まりが途切れる場合があります。音声を途切れないようにするには、「A.F.D. STD」を選んでください。

次のページへつづく

ＣＤなどの2チャンネルソースを5.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC（ドルビープロロジックIIムービー /ミュージック）

サラウンド効果を再現するために2チャンネルの音声信号を、ドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりを持ったサラウンド効果を、特別なサウンドを加えずに実現したものです。

ご注意

- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- 二ヶ国語放送の場合、Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSICの効果は得られません。

ソースに合わせてサラウンドを楽しむ

■ PORTABLE AUDIO ENHANCER（ポータブルオーディオエンハンサー）

携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

■ OMNI-DIRECTIONAL SOUND（オムニディレクショナルサウンド）

サテライトスピーカーに囲まれた空間の中はどこでも、どこを向いても、ステレオ効果を体感することができます。パーティなどのBGMに適しています。

サラウンド効果を消すには

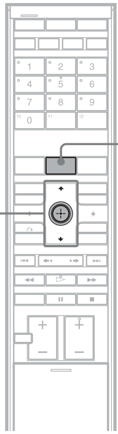
サウンドフィールドボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「A.F.D. STD」を表示させる。

ちょっと一言

- 本機は各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドを記憶します。
  DVDファンクションやチューナーファンクションなどを選ぶと、最後に選んだサウンドフィールドが再び自動的に適応されます。例えば、DVDの音声をDolby Pro Logic II MOVIEのサウンドフィールドで聞いていた場合、他のファンクションを選んでからDVDに戻ると再びDolby Pro Logic II MOVIEが適応されます。

音質を調整する

音声の低域、中域、高域のレベルを簡単に調整することができます。



1　音質調整ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「BASS」、「MIDDLE」または「TREBLE」を表示させる。

- 「BASS」
  音声の低域を調整します。（−6.0〜＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）
- 「MIDDLE」
  音声の中域を調整します。（−6.0〜＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）
- 「TREBLE」
  音声の高域を調整します。（−6.0〜＋6.0まで、0.5 dBずつ調整可能）

2　↑/↓で調整する。

調整した値はコントロールユニットの表示窓に表示されます。

3　⊕（決定）を押す。

HDMIコントロールでBRAVIA Linkを使う

BRAVIA Linkはこの機能を搭載したソニー製テレビ‘BRAVIA’（ブラビア）のみでお使いいただけます。HDMIコントロールに対応したソニー製品をHDMIケーブル（別売り）でつなぐことで、次の操作が簡単になります。

- ワンタッチ再生（56ページ）：リモコンの▷ボタンを押すだけで、テレビは自動的に電源が入り、DVD入力モードに切り換わります。同時に音声が自動的に本機のスピーカーより出力されます。
- システムオーディオコントロール（57ページ）：テレビを視聴しているとき、テレビの音声をテレビのスピーカーから出力するのか、本機のスピーカーから出力するのかを選択できます。
- 電源オフ連動（58ページ）：リモコンのテレビ電源ボタンを使い、テレビの電源を切ると、本機の電源も切ることができます。

HDMIコントロールは、HDMI (high-definition multimedia interface)で規格されているHDMI CEC (Consumer Electronics Control)を使った機器間相互制御機能です。

HDMIコントロールは次のような場合は機能しません。

- 本機をソニー製品のHDMIコントロール（BRAVIA Link）に対応していない機器につないだ場合。
- コントロールユニットをHDMIでつないでいない場合。

本機はBRAVIA Linkに対応している機器につなぐことをおすすめします。

ご注意

- つないだ機器によっては、HDMIコントロールが機能しない場合があります。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMIコントロールの準備をする

本機は「HDMIコントロール設定連動」に対応しています。
「HDMIコントロール設定連動」に対応しているテレビをお使いの場合は、テレビの「HDMIコントロール設定」を行うと、本機の設定内容も連動して設定されます。操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

「HDMIコントロール設定連動」に非対応のテレビをお使いの場合は、HDMIコントロールをお使いいただくために、下記のとおり本機とテレビの両方の設定をしてください。

1 **コントロールユニットとテレビ（HDMIコントロールに対応）がHDMIケーブルでつながれているか確認する。**

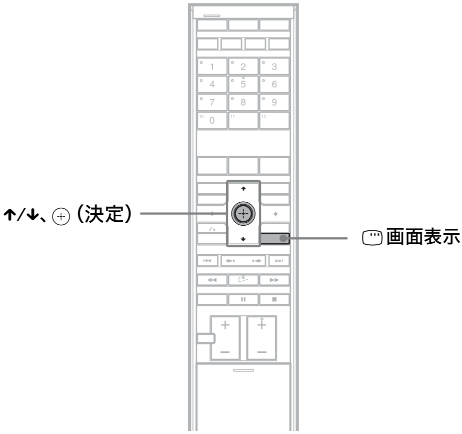
2 **本機とテレビの電源を入れる。**

3 **本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。**

4 **本機とテレビそれぞれのHDMIコントロールの設定をする。**
詳しくは次の「[HDMIコントロール] を設定する」をご覧ください。テレビについての詳しい設定はテレビの取扱説明書をご覧ください。テレビによっては、HDMIコントロールのお買い上げ時の設定がオフ（切）になっている場合があります。

次のページへつづく

［HDMIコントロール］を設定する

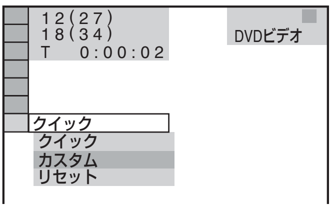


1 ディスクの再生中は、再生を止めてから 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

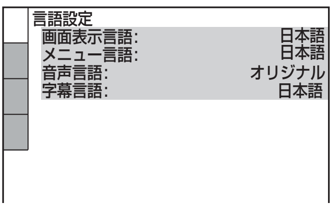
2 ↑/↓で [設定]を選び、⊕ (決定)を押す。

[設定]の項目が表示されます。



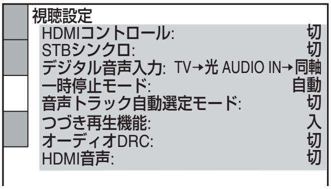
3 ↑/↓で[カスタム]を選び、⊕ (決定)を押す。

設定画面が表示されます。



4 ↑/↓で[視聴設定]を選び、⊕(決定)を押す。

選んだ項目の画面が表示されます。



5 ↑/↓で[HDMIコントロール]を選び、⊕(決定)を押す。

6 ↑/↓で[入]を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [入]：[HDMIコントロール]を使います。
- [切]：[HDMIコントロール]を使いません。

7 ⊕(決定)を押す。

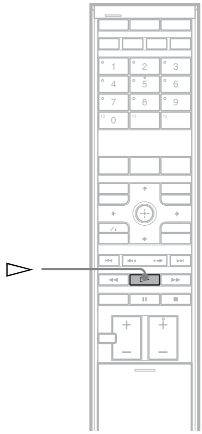
ご注意

- [HDMIの接続を確認してください]が表示された場合は、本機とテレビが正しくつながれているか確認してください。

ボタンひとつでDVDを視聴する

（ワンタッチ再生）

リモコンの⊳ボタンを押すだけ（ワンタッチ）で、本機とHDMI接続したテレビの電源が同時に入り、DVDが自動的に再生されます。



それぞれの機器のHDMI接続を確認し、必ず[HDMIコントロール]を[入]にしてください（54ページ）。

リモコンの⊳を押す。

本機とHDMI接続したテレビの電源が同時に入り、DVDが自動的に再生されます。
本機とテレビは次のように作動します。

本機	テレビ
電源が入る。 ↓ 「DVD」ファンクションに切り換わる。 ↓ DVDを再生し、音声を出力する。	電源が入る。 ↓ HDMI入力に切り換わる。 ↓ 音声が最小になる。

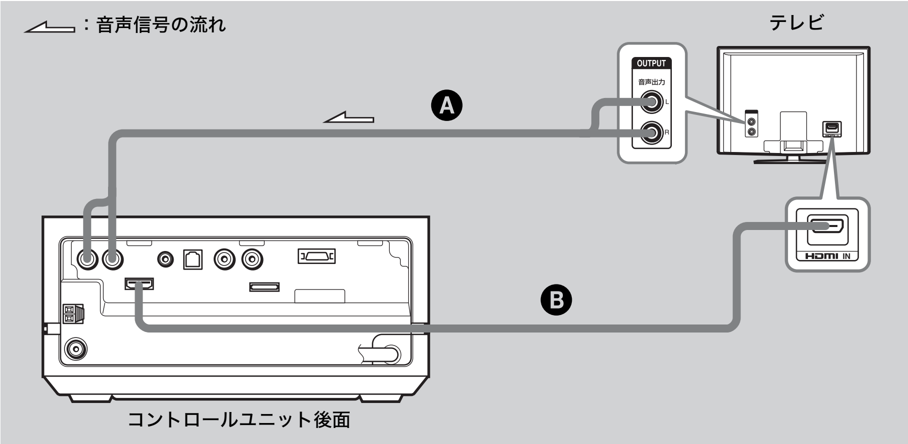
ご注意

- ファンクションが「DMPORT」のときは、ワンタッチ再生は作動しなくなります。
- テレビによっては、映像の始まりが出力されない場合があります。
- テレビによっては、リモコンの⊳を押してから再生が始まるまで数十秒程度時間がかかる場合があります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作でテレビの音声を本機のスピーカーで楽しむことができます。
システムオーディオコントロール機能を使うには、コントロールユニットとテレビをステレオ音声コード（別売り）（Ⓐ）とHDMIケーブル（別売り）（Ⓑ）でつなぎます。



テレビの設定によっては、テレビを視聴しているときに、本機の電源が自動的に入り、「TV」ファンクションに切り換わります。テレビの音声が本機のスピーカーから出力され、同時にテレビのスピーカーの音量は最小になります。

システムオーディオコントロール機能は次のように使うことができます。

- テレビを視聴しているときに、本機のファンクションを「TV」にすると、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。
- テレビの音量調節ボタンで、本機の音量を調節できます。
- 本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから出力されます。

システムオーディオコントロール機能はテレビのメニューからも操作できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機の電源を入れる前にテレビの電源が入っているとき、一時的にテレビの音声が出力されない場合があります。
- テレビ番組とDVDを2画面モードで視聴しているときに、テレビ番組（ハイライト表示される画面）を選んだ場合またはテレビモードに戻る場合は、DVDの再生が停止します。
- テレビからDVD音声を出力するには、本機の[HDMI音声]を[入]にします（113ページ）。
- DVDの再生中に、テレビチューナーの画面に切り換えると、本機はテレビの音声を出力するため、自動的にファンクションが「TV」に切り換わりDVDの再生が停止します。

ちょっと一言

- Ⓐのアナログ接続のかわりに、デジタル接続をすることも可能です（29ページ）。

テレビと同時に本機の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切るときに、本機の電源も自動的に切れるようにします。
電源オフ連動機能を使うには、コントロールユニットとテレビをHDMIケーブル（別売り）でつないでください。詳しくは57ページをご覧ください。
本機のリモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットの**I/⏻**（電源）ボタンを押して、本機の電源を切っても、テレビの電源は切れません。

ご注意

- 電源オフ連動機能を使う前に、テレビの電源に関する機能をオン（入）にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の状態によっては本機の電源を切れない場合があります。

本機でSTB（セットトップボックス）のデジタルサウンドを楽しむ

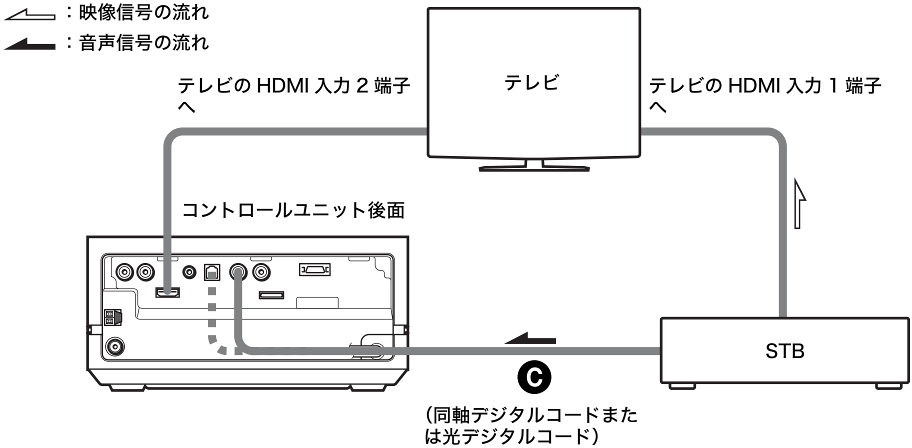
（STBシンクロ）

STBなどのデジタルサウンドと映像を楽しめます。音声は本機のスピーカーから出力されます。STBなどの映像はHDMI接続（下図のHDMI入力１端子への接続）されたテレビから出力されます。次の接続と設定を行なってください。

本機とSTBをテレビにつなぐ

必ずテレビのHDMI入力1端子とSTBをHDMIケーブル（別売り）でつなぎます。
次のようにつなぐことで、マルチチャンネル音声を本機のスピーカーで楽しめます。

ご注意
- STBシンクロ機能を使うためには、テレビはHDMI入力端子が2つ必要です。
- 次の接続図のHDMI入力端子の名称は一例です。



HDMI コントロールで BRAVIA Link を使う

次のページへつづく

[STBシンクロ] を設定する

1 **I/⏻を押す。**

2 **停止中に、画面表示ボタンを押す。**

3 **↑/↓で [設定]を選び、⊕(決定)を押す。**

4 **↑/↓で[カスタム]を選び、⊕(決定)を押す。**

5 **↑/↓で[視聴設定]を選び、⊕(決定)を押す。**

ご注意
- [STBシンクロ]機能を設定するには、先に[HDMIコントロール]を[入]にしてください（54ページ）。

6 **↑/↓で[STBシンクロ]を選び、⊕(決定)を押す。**

7 **↑/↓で[入]を選ぶ。**

お買い上げ時の設定は下線の項目です。
- [入]：[STBシンクロ]機能を使います。
- [切]：[STBシンクロ]機能を使いません。

8 **⊕(決定)を押す。**

[デジタル音声入力] 設定が自動的に選択されます。



9 **同軸デジタルコードまたは光デジタルコードに応じて(Ⓒ)、↑/↓で項目を選ぶ。**

お買い上げ時の設定は下線の項目です。
- [TV → 光 AUDIO IN → 同軸]：デジタル音声入力光が「TV」ファンクションに、デジタル音声入力同軸が「AUDIO IN」ファンクションに割り当てられます。
- [TV → 同軸 AUDIO IN → 光]：デジタル音声入力同軸が「TV」ファンクションに、デジタル音声入力光が「AUDIO IN」ファンクションに割り当てられます。

10 ⊕(決定)を押す。

選んだ項目が設定されます。

ちょっと一言

- この機能はHDMIコントロールに対応していないSTBでも使うことができます。

デジタルサウンドを楽しむ

STBとつないだテレビのHDMI入力を選ぶ（図のHDMI入力1端子への接続）。

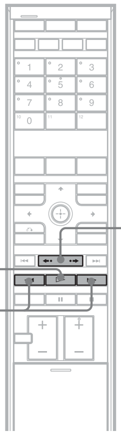
本機はAUDIO IN（デジタル音声入力の同軸または光）端子より自動的に信号を受け、STBの音声を本機のスピーカーより出力します。

見たいところ、聞きたいところを探す

（スキャン/スロー再生/コマ送り）

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところを探したり、スロー再生をすることができます。



ご注意

- DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

早送り再生/早戻し再生をして見たいところ、聞きたいところを探す（スキャン）

（JPEG画像ファイルを除く）

ディスクの再生中に、►►/I► または◄I/◄◄を押します。見たいところや聞きたいところを見つけたら、▷を押して通常の速さにします。スキャン中に►►/I► または◄I/◄◄を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。ディスクによって実際の速さは異なります。

再生方向

×2► → 1 ►► → 2 ►► → 3 ►►

3 ►►（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）

×2►（DVDビデオ/CDのみ）

逆方向

×2◄ → 1 ◄◄ → 2 ◄◄ → 3 ◄◄

3 ◄◄（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）

×2◄（DVDビデオのみ）

スロー再生をする

(DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、ビデオCDのみ)

ディスクの一時停止中に▶▶/▮▶ または◀▮/◀◀を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。スロー再生をしているとき、ボタンを押すたびにスロー再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向
2 ▮▶ ⟷ 1 ▮▶

逆方向（DVDビデオ/DVD-R/DVD-RWのみ）
2 ◀▮ ⟷ 1 ◀▮

コマ送りで見る

(DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、ビデオCDのみ)

一時停止中に再生方向はII▶ ステップ（●➜)、逆方向（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）は◀II ステップ（⬅●）を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。

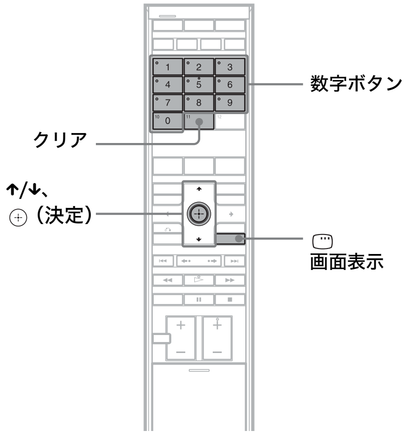
ご注意

• DVD-R（VRモード)、DVD-RW（VRモード）では、静止画はサーチできません。

タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

タイトル/チャプターでDVDを、トラック/インデックス/シーンでビデオCD、CD、データCD、データDVDを検索できます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ)。



1　画面表示ボタンを押す（データCDまたはデータDVDのJPEG画像ファイルを再生しているときは画面表示ボタンを2回押す)。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

次のページへつづく

2 ↑/↓で検索項目を選ぶ。

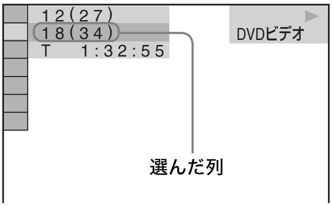
表示される項目は、ディスクによって異なります。

[タイトル]、[シーン]、[トラック]
[チャプター]、[インデックス]
[時間/テキスト]

タイムコードを入力して場面を探すときは、[時間/テキスト]を選んでください。

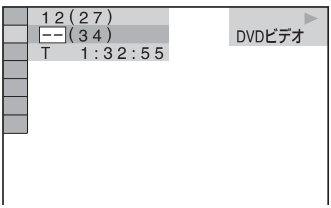
[トラック]
[アルバム]
[ファイル]

例）[チャプター]を選んだとき
[**（**）]が選ばれます（**は任意の数字)。カッコ内の数字はチャプターの総数です。



3 ⊕（決定）を押す。

[**（**）]が[--（**）]に変わります。



4 ↑/↓または数字ボタンでタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンなどの番号を入力する。

間違えたときは

クリアボタンを押して、入力しなおす。

5 ⊕（決定）を押す。

選んだ番号のチャプターやインデックスなどの再生が始まります。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ）（DVDビデオ/DVD-VRモードのみ）

1 手順2で [時間/テキスト]を選ぶ。
[T**:**:**](現在のタイトルの経過時間)が選ばれます。
2 ⊕（決定）を押す。
[T**:**:**]が[T--:--:--]に変わります。
3 数字ボタンでタイムコードを入力し、⊕（決定）を押す。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、「21020」と入力します。

ちょっと一言

- テレビにコントロールメニュー画面が表示されていなくても、数字ボタンと ⊕（決定）を押してチャプター (DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW)やトラック(ビデオCD、CD)を探すことができます。

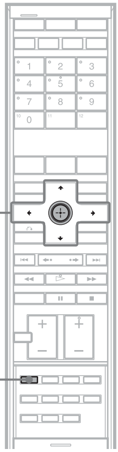
ご注意

- DVD+R/DVD+RWではタイムコードを使って検索することはできません。

シーンで検索する
（ピクチャーナビ）

DVD-V **VIDEO CD**

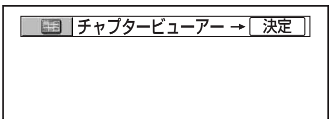
画面を9分割して、見たいシーンをすばやく検索できます。



カバーを開けた状態

1　ディスクの再生中に、ピクチャーナビボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。

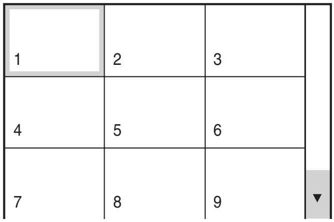


2　ピクチャーナビボタンを繰り返し押して、項目を選ぶ。

- ［タイトルビューアー］（DVDビデオのみ）
- ［チャプタービューアー］（DVDビデオのみ）
- ［トラックビューアー］（ビデオCD、スーパー VCDのみ）

3　⊕（決定）を押す。

次のようにそれぞれのタイトル、チャプター、またはトラックの最初のシーンが表示されます。



4　←/↑/↓/→で、タイトル、チャプター、トラックを選び、⊕（決定）を押す。

選んだシーンから再生が始まります。

設定の途中で通常の再生に戻るには

リターンボタンを押す。

ご注意

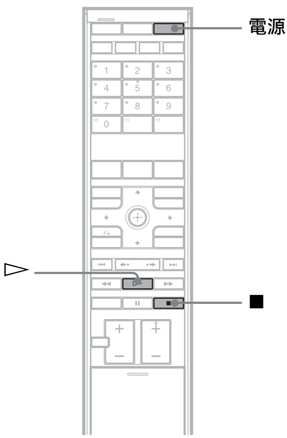
- ディスクによっては、操作を禁止している場合があります。

再生を止めたところから再生する

（リジューム再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

■を押し再生を止めたとき、表示窓に「Resume」が表示され、本機は再生を止めたところを記憶します。ディスクを取り出さないかぎり、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して本機をスタンバイモードにしてもリジューム再生できます。



1　ディスクの再生中に、■を押して再生を止める。

コントロールユニットの表示窓に「Resume」と表示されます。
「Resume」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2　▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ご注意

- [視聴設定]の[つづき再生機能]が[切]の場合（112ページ）、ファンクションボタンを押してファンクションを変えたときは再生を止めたところの記憶は消えます。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記憶は消え、リジューム再生できません。
  - ディスクを取り出したとき
  - 本機がスタンバイモードになったとき（データCD、データDVDのみ）
  - コントロールメニューの設定画面で設定を変更したとき
  - ファンクションボタンを押してファンクションを変えたとき
  - 電源コードをコンセントから抜いたとき
  - 視聴年齢設定のレベルを変更したとき
- VRモードのDVD-R/DVD-RW、CD、データCD、データDVDは現在再生しているディスクのみ再生を止めたところを記憶します。
- プログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- ディスクによってはリジューム再生できません。

複数枚のディスクをリジューム再生する（つづき再生機能）

（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

本機は、ディスクの再生を途中で止めたところを記憶し、同じディスクを入れて次にまた再生するときに続きから再生します。つづき再生の記憶容量が最大になると、最初の１枚目の記憶が消去されます。
この機能を使うには、[視聴設定]の[つづき再生機能]を[入]にしてください。詳しくは「[つづき再生機能]（DVDビデオ、ビデオCDのみ）」（112ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機は少なくとも10枚まで記憶することができます。
- ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、▷を押します。

ご注意

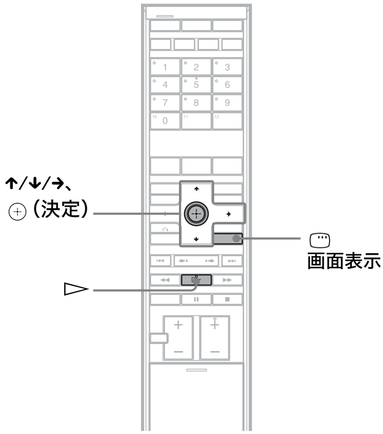
- [視聴設定]の[つづき再生機能]が[切]の場合（112ページ）、ファンクションボタンを押してファンクションを変えたときは再生を止めたところの記憶は消えます。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記憶は消え、リジューム再生できません。
  - ー コントロールメニューの設定画面で設定を変更したとき
  - ー 電源コードをコンセントから抜いたとき
  - ー 視聴年齢設定のレベルを変更したとき
- プログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- ディスクによってはリジューム再生できません。

好きな順に再生する

（プログラム再生）

VIDEO CD　CD

ディスクの中のトラックを選んで好きな順に再生できます。最大99のトラックを、再生したい順にプログラムできます。

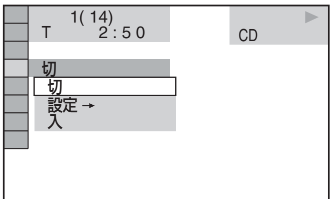


1　画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

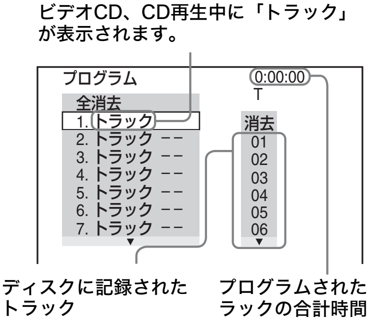
2　↑/↓で [プログラム]を選び、⊕（決定）を押す。

[プログラム]の項目が表示されます。



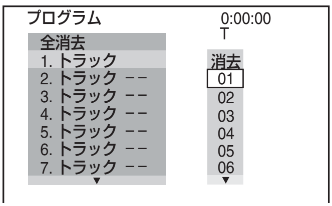
次のページへつづく

3 ↑/↓で[設定→]を選び、⊕（決定）を押す。



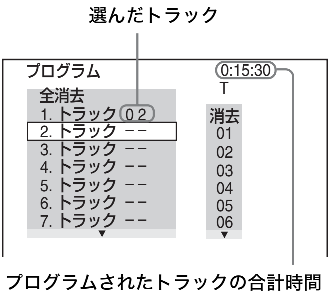
4 →を押す。

カーソルがトラックの列[T]（例では[01]）に移動します。



5 プログラムしたいトラックを選ぶ。

例えば、トラック[02]を選びます。
↑/↓で[T]の下にある[02]を選び、⊕（決定）を押します。



6 続けて再生するトラックを設定したいときは、手順4、5を繰り返す。

プログラムしたトラックは、選んだ順に表示されます。

7 ▷を押してプログラム再生を始めます。

プログラム再生が始まります。プログラム再生が終わったとき、▷を押すと同じプログラムを再生します。

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか手順3で[切]を選ぶ。
同じプログラムを再生したいときは、手順3で[入]を選んだ後、⊕（決定）を押す。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

プログラムした内容を変えるには

1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑/↓で、変えたい、または取り消したいトラックナンバーを選ぶ。プログラムしたトラックを消去したい場合は、クリアボタンを押す。
3 新しいプログラムを設定するには手順5を行う。プログラムを取り消すには[消去]を選び、⊕（決定）を押す。

プログラムしたすべての内容を取り消すには

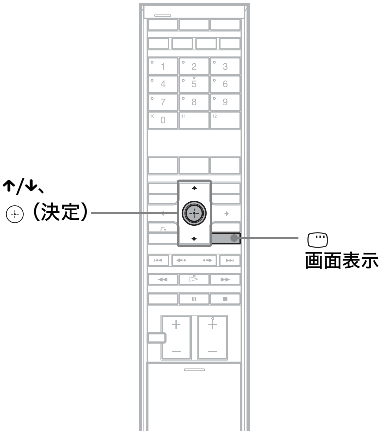
1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑ で[全消去]を選ぶ。
3 ⊕（決定）を押す。

順不同に再生する

（シャッフル再生）

VIDEO CD　C D　DATA-CD　DATA DVD

ディスク上に記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。



ご注意

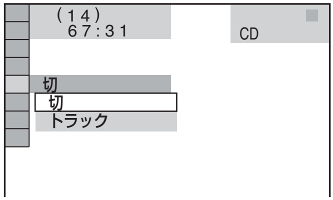
- MP3再生中は同じ曲が続けて再生されることもあります。

1　ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で [シャッフル]を選び、⊕（決定）を押す。

[シャッフル]の項目が表示されます。



3　↑/↓でシャッフル再生したい項目を選ぶ。

■ ビデオCDまたはCDを再生しているとき

- [トラック]：ディスクのトラックをシャッフル再生します。

■ プログラム再生を使っているとき

- [入]：プログラム再生の中でシャッフル再生されます。

■ データCDまたはデータDVDを再生しているとき

- [入(MP3)]：アルバム再生の中でMP3音声トラックがシャッフル再生されます。アルバムが選ばれていない場合、最初のアルバムがシャッフル再生されます。

ご注意

- すでに再生された曲もシャッフル再生されます。

4　⊕（決定）を押す。

シャッフル再生が始まります。

次のページへつづく

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか手順3で[切]を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

ご注意

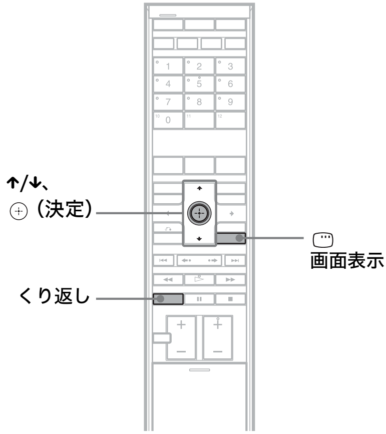
- PBC再生中のビデオCDおよびスーパー VCDではシャッフル再生はできません。

繰り返し再生する

（リピート再生）

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

ディスクのすべて、または1つのタイトル/チャプター /トラック/アルバムを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

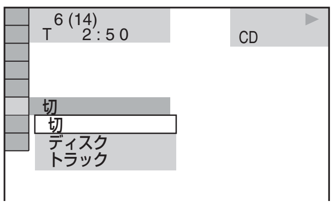


1 ディスクの再生中に画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で[リピート]を選び、⊕（決定）を押す。

[リピート]の項目が表示されます。



3 ↑/↓でリピート再生したい種類を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

■ DVDビデオまたはDVD-VRのとき
- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのタイトルを繰り返し再生します。
- [タイトル]：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- [チャプター]：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

■ ビデオCDまたはCDのとき
- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。
- [トラック]：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■ データCDまたはデータDVDのとき
- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのアルバムを繰り返し再生します。
- [アルバム]：再生中のアルバムを繰り返し再生します。
- [トラック]（MP3音声トラックのみ）：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■ シャッフルまたはプログラム再生のとき
- [切]：リピート再生をオフにします。
- [入]：プログラム再生、シャッフル再生のときリピート再生します。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ種類でリピート再生になります。

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか手順3で[切]を選ぶ。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返し画面表示ボタンを押す。

ご注意

- PBC再生のビデオCDおよびスーパー VCDではリピート再生はできません。
- MP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルを含むデータCDまたはデータDVDをリピート再生中、再生経過時間の表示が同じでない場合、音声が映像と一致しないこともあります。
- [音声映像選択モード]で[映像（JPEG)]を選んでいるときは（84ページ）、[トラック]を選べません。

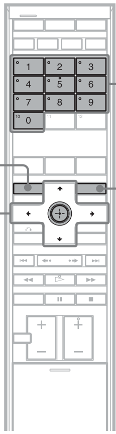
ちょっと一言

- リモコンのくり返しボタンでも操作できます。

DVDに記録されているメニューを使う

DVD-V

複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、DVDトップメニューボタンで好きなタイトルを選べます。ディスクの内容をメニューで選べるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをDVDメニューボタンで選べます。



1 DVDトップメニューボタンまたはDVDメニューボタンを押す。

ディスクに記録されたメニューがテレビに表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

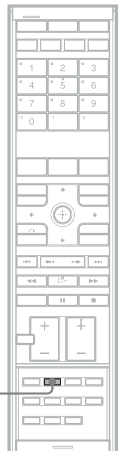
2 再生または変更したい項目を←/↑/↓/→または数字ボタンで選ぶ。

3 ⊕（決定）を押す。

音声を切り換える

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

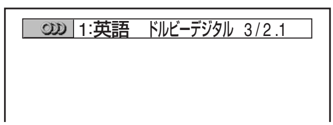
DVDビデオの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなDVDビデオでは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD、ビデオCD、MP3音声トラック再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。



カバーを開けた状態

1 ディスクの再生中に音声ボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。
DVDビデオの場合



2 音声ボタンを繰り返し押して、お好みの音声を選ぶ。

■ DVDビデオのとき

選べる言語はDVDビデオによって異なります。

4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（130ページ）を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、音声記録方式（音声チャンネル数など）が異なります。

■ DVD-VRのとき

ディスクに記録されている音声トラックの種類が表示されます。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

例：

- [1:主]：主音声
- [1:副]：副音声
- [1:主+副]：主音声+副音声
- [2:主]
- [2:副]
- [2:主+副]

ご注意

- ディスクに１つの音声しか記録されていないときは、[2:主]、[2:副]、[2:主+副]は表示されません。

■ ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）のとき

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [ステレオ]：通常のステレオ再生
- [1/L]：左チャンネルの音(モノラル)
- [2/R]：右チャンネルの音(モノラル)

■ スーパー VCDのとき

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [1：ステレオ]：音声トラック１のステレオ再生
- [1：1/L]：音声トラック1の左チャンネルの音（モノラル）
- [1：2/R]：音声トラック１の右チャンネルの音（モノラル）
- [2：ステレオ]：音声トラック2のステレオ再生
- [2：1/L]：音声トラック2の左チャンネルの音（モノラル）
- [2：2/R]：音声トラック2の右チャンネルの音（モノラル）

ご注意

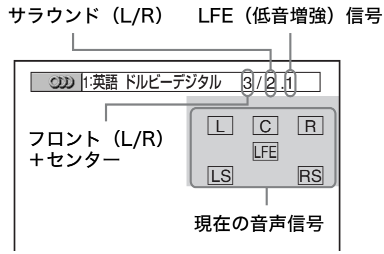
- 音声トラック2が記録されていないスーパー VCDでは、[2：ステレオ]、[2：1/L]、[2：2/R]を選ぶと音が出ません。

音声信号の種類を調べるには(DVDビデオのみ)

ディスクの再生中に音声ボタンを繰り返し押すと、テレビに現在の音声信号の種類（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）が表示されます。

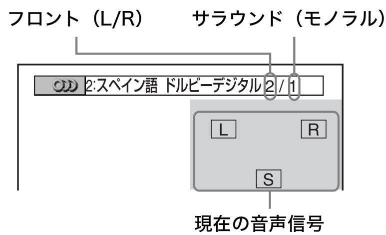
例：

ドルビーデジタル5.1chの場合



例：

ドルビーデジタル3chの場合



次のページへつづく

音声信号について

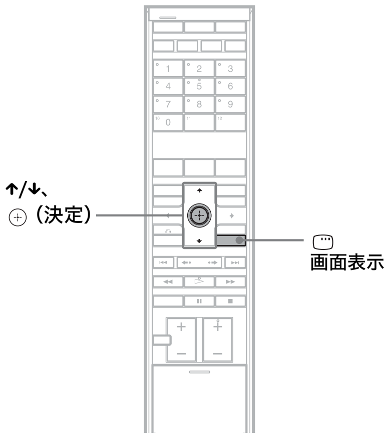
ディスクに記録されている音声信号は次のような音声チャンネルを持っています。チャンネルの音がそれぞれのスピーカーから出ます。

- フロント（L）
- フロント（R）
- センター
- サラウンド（L）
- サラウンド（R）
- サラウンド（モノラル）：ドルビーサラウンドサウンド処理信号、またはドルビーデジタルサウンドモノラル音声信号
- LFE（低音増強）信号

DVD-R/DVD-RWの[オリジナル]または[プレイリスト]を選んで再生する

DVD-VR

VRモードのDVD-R、またはDVD-RWの中には、2種類の再生方法を選べる場合があります。ディスクに実際に記録される[オリジナル]のタイトルと、DVDレコーダー等で編集して作成される[プレイリスト]という2種類のタイトルがあります。いずれかを選んで再生できます。

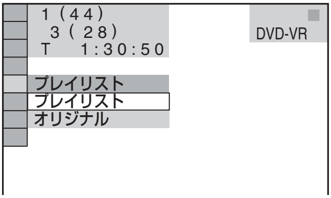


1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で[オリジナル/プレイリスト]を選び、⊕（決定）を押す。

[オリジナル/プレイリスト]の項目が表示されます。



3 ↑/↓で項目を選ぶ。

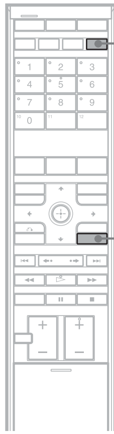
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [プレイリスト]：オリジナルをもとに編集して作られたタイトルを再生します。
- [オリジナル]：記録された元のタイトルを再生します。

4 ⊕（決定）を押す。

ディスクの情報を見る

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD



コントロールユニットの表示窓で経過時間や残り時間を見る

コントロールユニットの表示窓で、残り時間や、DVDの総タイトル数、ビデオCD、CDまたはMP3音声のトラックなどの情報を見ることができます（134ページ）。

本体表示ボタンを押す。

ディスクの再生中に、本体表示ボタンを押すたびに、コントロールユニットの表示窓は①→②→③→…→①→…のように切り換わります。
数秒後に表示窓の表示が消える項目もあります。

次のページへつづく

DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

① 現在のタイトル番号と経過時間
② 現在のタイトル番号と残り時間
③ 現在のチャプター番号と経過時間
④ 現在のチャプター番号と残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のタイトル番号とチャプター番号

ビデオCD（PBC再生中以外）またはCD再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② 現在のトラック番号と残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のトラック番号とインデックス* 番号

* ビデオCDのみ。

データCD（MP3音声トラック）またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② トラックの名前（ファイル名）

ちょっと一言

- ビデオCDをPBC再生中のときは、経過時間が表示されます。

ご注意

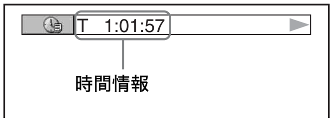
- 本機で表示されるDVDやCDのテキストはディスクの名前のみになります。
- MP3音声トラックの名前を表示できないときは、コントロールユニットの表示窓に「*」が表示されます。
- テキストによっては、ディスクやトラックの名前が表示されない場合があります。
- MP3音声トラックの経過時間は正確に表示されない場合があります。

テレビで経過時間や残り時間を見る

現在のタイトル、チャプター、トラックの経過時間や残り時間、ディスクの経過時間や残り時間を見ることができます。

1 ディスクの再生中に本体表示ボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。



2 本体表示ボタンを繰り返し押して、時間情報を切り換える。

ディスクの種類によって、時間情報の表示が切り換わります。

■ DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

- T　**:**:**（時:分:秒）
  現在のタイトルの経過時間
- T－**:**:**
  現在のタイトルの残り時間
- C　**:**:**
  現在のチャプターの経過時間
- C－**:**:**
  現在のチャプターの残り時間

■ ビデオCD（PBC再生）再生のとき

- **:**（分:秒）
  現在のシーンの経過時間

■ ビデオCD（PBC再生以外）またはCD再生のとき

- T　**:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間
- T－**:**
  現在のトラックの残り時間

- D　**:**
  現在のディスクの経過時間
- D−**:**
  現在のディスクの残り時間

■ データCD（MP3音声トラック）またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

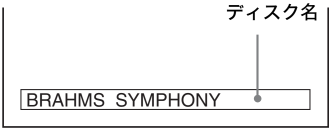
- T　**:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間

ご注意

- アルファベット文字と数字のみ表示されます。
- 再生されているディスクの種類によっては、限られた文字数までしか表示されない場合があります。また、ディスクによってはすべての文字が表示されない場合があります。

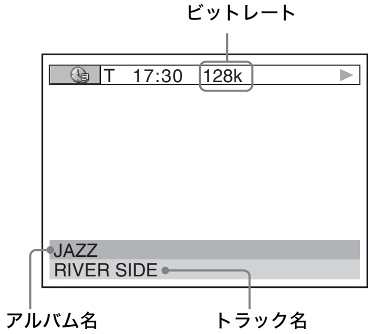
テレビでDVD、CDのテキスト情報を見る

「テレビで経過時間や残り時間を見る」（76ページ）の手順2で本体表示ボタンを繰り返し押して、DVD、CDに記録されたディスク名をテレビに表示します。
ディスク名を変更することはできません。もしディスク名が記録されていないときは、テレビに「NO TEXT」と表示されます。



テレビでデータCDやデータDVD（MP3音声トラック）のテキスト情報を見る

データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生中に本体表示ボタンを押すと、テレビにアルバム名やトラック名、音声のビットレート（１秒あたりのデータ量）を表示できます。



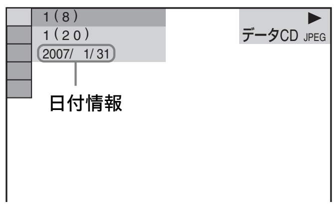
テレビで日付情報を見る

（JPEG画像ファイルのみ）

Exif*タグ情報が記録されているJPEG画像ファイルを再生しているときに、日付情報をテレビで見ることができます。

再生中に画面表示ボタンを2回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。



* Exchangeable Image File Formatは日本電子工業振興会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

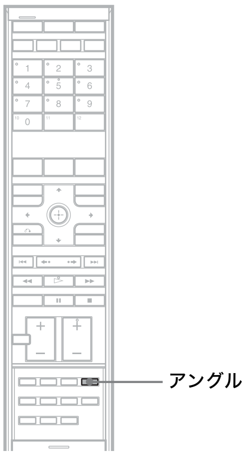
ちょっと一言

- 日付情報は[年、月、日]の順で表示されます。

アングルを切り換える

DVD-V

複数のアングル（マルチアングル）がディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。



カバーを開けた状態

ディスクの再生中にアングルボタンを押す。

アングルボタンを押すたびに、アングルが変わります。

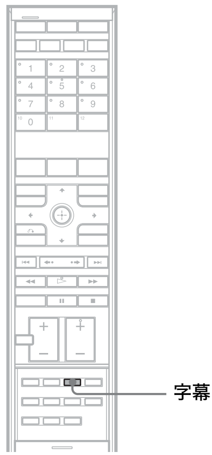
ご注意

- ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する

DVD-V　DVD-VR

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語（マルチランゲージ）で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えることができます。



カバーを開けた状態

ディスクの再生中に字幕ボタンを押す。

字幕ボタンを押すたびに、字幕の言語が変わります。

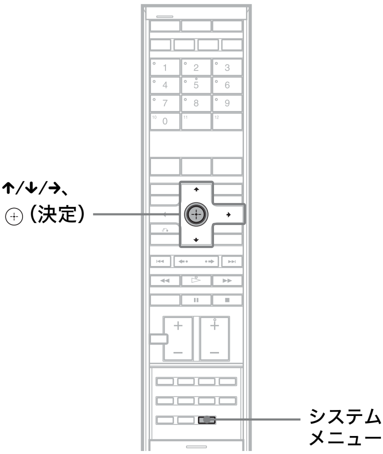
ご注意

- ディスクによっては複数の言語で字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

音声と映像のずれを調節する
(A/V SYNC)

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD

つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。



カバーを開けた状態

1 システムメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓に「A/V SYNC」を表示させてから、⊕（決定）または→を押す。

3 ↑/↓を押してコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- 「LONG」（長）
  音声と映像のずれを調節します。
  ずれの時間が長いとき、この設定にしてください。
- 「SHORT」（短）
  音声と映像のずれを調節します。
  ずれの時間が短いとき、この設定にしてください。
- 「OFF」（オフ）
  調節しません。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

5 システムメニューボタンを押す。

システムメニューを終了します。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

DATA-CD　DATA DVD

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルとは

MP3音声トラックはISO/IEC MPEG準拠の音声圧縮技術で記録された音声データです。JPEG画像ファイルは画像圧縮技術で記録された画像データです。

本機で再生できるディスク

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）やデータDVD（DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-ROM）に記録されているMP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声トラックまたはJPEG画像ファイルを再生できます。
データCDはISO9660のレベル1/レベル2、それらの拡張フォーマット/Joliet、データDVDはUDF（Universal Disk Format）準拠で記録されたものが再生可能です。マルチセッション方式で記録されたディスクも再生できます。
記録方式について詳しくはCD-R/CD-RWドライブ、DVD-R/DVD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

マルチセッションディスクについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

ご注意

- 本機では、パケットライト方式で作成されたデータCDやデータDVDを再生できないことがあります。

本機で再生できるMP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

本機では次のMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。

- 拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）のデータ
- DCF*画像ファイルフォーマットに適合したデータ

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）が制定した、デジタルカメラ用画像フォーマット。

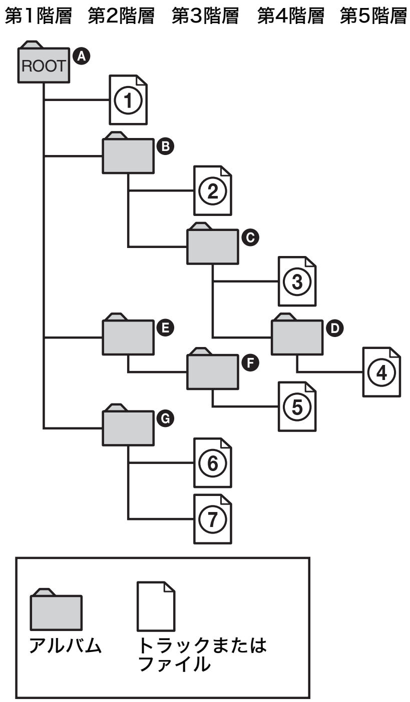
ご注意

- 本機は拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）であれば、MP3音声トラックやJPEG画像ファイルのデータではなくても再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- 本機はMP3PROで記録された音声には対応していません。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生する順番について

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルは次の順番で再生します。

■ ディスク内の構造について



データCDまたはデータDVDを入れて▷を押すと、図の①から⑦の順に数字のつけられたトラック（またはファイル）を再生します。選んでいるアルバムの中のサブアルバム（トラックまたはファイル）は同じ階層の中にある他のアルバムより優先されます（例：ⒸはⒹを含んでいるので、④は⑤よりも前に再生されます）。

DVDメニューボタンを押すと、アルバムの名前リストがテレビに表示されます。アルバムの名前は以下の順に並びます。（Ⓐ→Ⓑ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓕ→Ⓖ）トラック（またはファイル）を含まないアルバム（例えばⒺ）は、リストに表示されません。

ちょっと一言

- ディスクにトラックやファイルを記録するときは、あらかじめトラックやファイル名の頭に数字(01、02、03など)を入れておくと、その数字の順番に再生することが出来ます。
- ディスクがたくさんの階層で構成されていると、読み込みに時間がかかります。

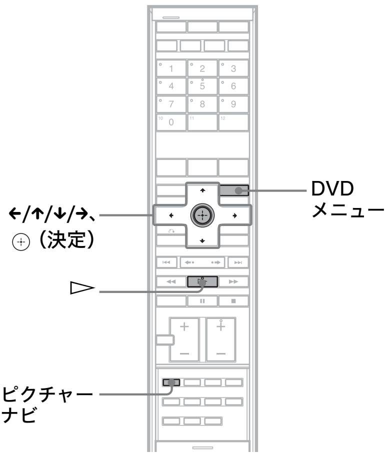
ご注意

- データCDやデータDVDを作成したソフトウェアによっては、イラストの順序で再生されないことがあります。
  また、アルバム数が200以上、または各アルバムのトラック数およびファイル数の合計が300以上のときは、イラストの順序で再生されないことがあります。
- 本機はディスクに記録された200番目のアルバムまで認識できます。それ以降のアルバムは再生できない場合があります。
- 次のアルバムに進むときや、他のアルバムに移動するときは再生までに時間がかかる場合があります。
- JPEG画像ファイルの種類によっては再生できない場合があります。

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生する

DATA-CD　DATA DVD

本機ではデータCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。



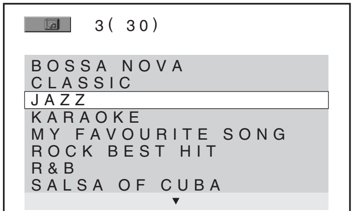
カバーを開けた状態

MP3音声トラックまたはアルバムを選ぶ

1 **データCDまたはデータDVDを本機に入れる。**

2 **DVDメニューボタンを押す。**

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。



アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

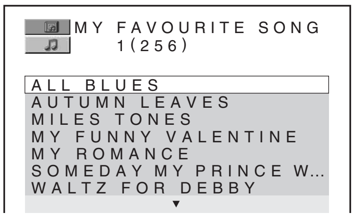
3 **↑/↓で再生したいアルバムを選ぶ。**

■ **アルバムを再生するには**

▷を押して選んだアルバムを再生する。

■ **トラックを再生するには**

⊕（決定）を押す。
テレビに、選んだアルバムの中のトラックのリストが表示されます。



↑/↓ で再生したいトラックを選び、⊕（決定）を押す。
選んだトラックの再生が始まります。
DVDメニューボタンを押してトラックリストの表示を消すこともできます。
DVDメニューボタンを再び押すとアルバムリストが表示されます。

再生を止めるには
■を押す。

次または前のMP3音声トラックを再生するには
再生中に▶▶Iまたは I◀◀ を押す。再生中のアルバムの最後のトラックで▶▶Iを押すと、次のアルバムの最初のトラックを選べます。
I◀◀ で前のアルバムのトラックに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバムリストからアルバムを選びます。

前の画面表示に戻るには
↶ リターンボタンを押す。

画面表示を消すには
DVDメニューボタンを押す。

JPEG画像ファイルまたはアルバムを選ぶ

1 データCDまたはデータDVDを本機に入れる。

2 DVDメニューボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。

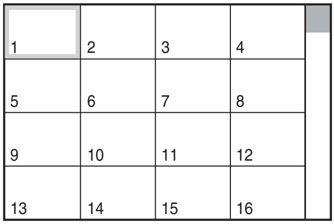


アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

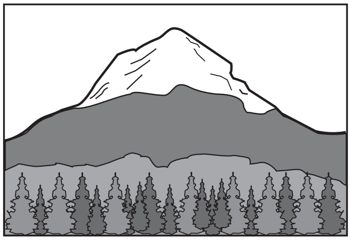
3 ↑/↓で再生したいアルバムを選ぶ。

■アルバムを再生するには
▷を押して選んだアルバムを再生する。

■JPEG画像ファイルを表示するには
ピクチャーナビボタンを押す。
テレビに、選んだアルバムの中の画像が16コマのスクリーンで表示されます。



←/↑/↓/→ で表示したい画像を選び、⊕（決定）を押す。



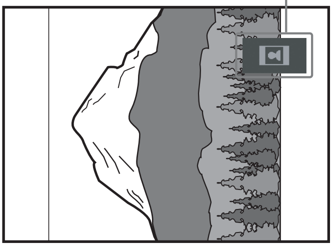
次または前のJPEG画像ファイルを表示するには
再生中に → または ← を押す。再生中のアルバムの最後のファイルで → を押すと、次のアルバムの最初のファイルを選べます。
← で前のアルバムのファイルに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバムリストからアルバムを選びます。

JPEG画像ファイルを回転するには
JPEG画像ファイルが画面に表示されているときに、画像を90度回転させることができます。

次のページへつづく

画像が表示されているときに↑/↓ を押してください。↑ を押すたびに、画像は反時計回りに90度ずつ回転します。

↑ を1度押したときの例：



通常の画面に戻るにはクリアボタンを押します。

再生を止めるには

■を押す。

ちょっと一言

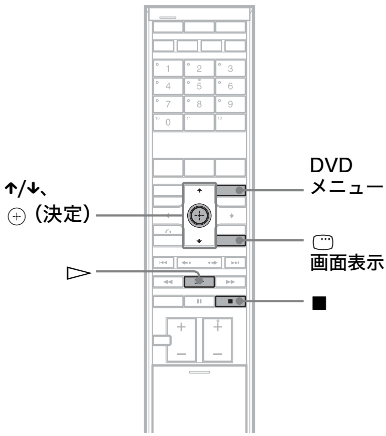
- スクロールボックスがスクリーン右側に表示されます。ほかの画像を表示するには最下段のコマを選び↓を押します。戻るには最上段のコマを選び↑を押します。

JPEG画像ファイルをスライドショーとして楽しむ

DATA-CD DATA DVD

JPEG画像を音声つきでスライドショー*として再生するには、データCDまたはデータDVDの同じアルバムの中にMP3音声トラックとJPEG画像ファイルをあらかじめ一緒に入れてください。再生時に以下の[音声映像選択モード]で[自動]を選んでください。

* スライドショーとは、テレビに複数のJPEG画像ファイルを自動的に切り換えながら表示する機能です。



1 データCDまたはデータDVDを本機に入れる。

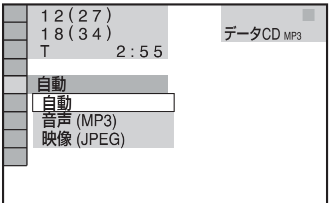
2 ■を押す。

3 画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

4 ↑/↓で [音声映像選択モード]を選び、⊕（決定）を押す。

[音声映像選択モード]の項目が表示されます。



5 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [自動]：同じアルバムの中にあるJPEG画像ファイルとMP3音声トラックをスライドショーとして再生します。
- [音声（MP3)]：MP3音声トラックのみ続けて再生します。
- [映像（JPEG)]：JPEG画像ファイルのみスライドショーとして表示します。

6 ⊕ (決定)を押す。

7 DVDメニューボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。

8 ↑/↓でアルバムを選び、▷を押す。

本機は選んだアルバムの再生を始めます。

DVDメニューボタンを押してアルバムリストを表示したり消したりすることができます。

ちょっと一言

- [自動]を選んでいるときは、1枚のアルバムの中で300のMP3音声トラックと300のJPEG画像ファイルを読み込めます。[音声（MP3)]または[映像（JPEG)]を選んでいるときは、１枚のアルバムの中で600のMP3音声トラック、または600のJPEG画像ファイルを読み込めます。設定にかかわらず、最大200アルバムまで読み込めます。

ご注意

- [音声映像選択モード]にて、MP3音声トラックのみ記録されているディスクを[映像（JPEG）]にしても、またJPEG画像ファイルのみ記録されているディスクの設定を[音声（MP3）]にしても、[音声映像選択モード]は変更されない場合があります。
- [音声（MP3)]を選んでいるときは、ピクチャーナビボタンは使えません。
- 大容量のMP３音声トラックとJPEG画像ファイルを同時に再生しようとすると、音飛びする場合があります。ファイルを作るときには、MP3音声トラックのビットレートを128kbps以下に設定されることをおすすめします。それでも音飛びする場合は、JPEG画像ファイルのデータを小さくしてください。

スライドショーの表示間隔を変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

JPEG画像ファイルをスライドショーを使って表示するときに、画像の表示間隔を変えることができます。

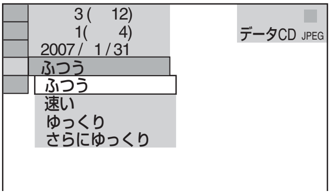
1 画面表示ボタンを２回押す。

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [スライド送り時間]を選び、⊕（決定）を押す。

[スライド送り時間]の項目が表示されます。

次のページへつづく



3 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [ふつう]：6〜9秒の表示間隔です。
- [速い]：[ふつう]よりも表示間隔が短くなります。
- [ゆっくり]：[ふつう]よりも表示間隔が長くなります。
- [さらにゆっくり]：[ゆっくり]よりも表示間隔が長くなります。

4 (決定)を押す。

選んだ設定が有効になります。

ご注意

- JPEG画像ファイルによっては、選んだ表示間隔よりも長く時間がかかる場合があります。特に300万ピクセル以上のプログレッシブJPEG画像ファイルやJPEG画像ファイルを表示する場合に長い時間がかかります。

スライドショーの効果を選ぶ（JPEG画像ファイルのみ）

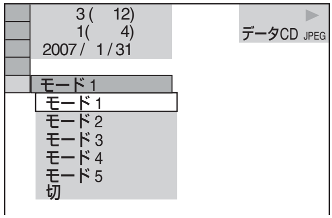
JPEG画像ファイルをスライドショーで表示するときの効果を選べます。

1 画面表示ボタンを２回押す。

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [スライド効果]を選び、(決定)を押す。

[スライド効果]の項目が表示されます。



3 ↑/↓で設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

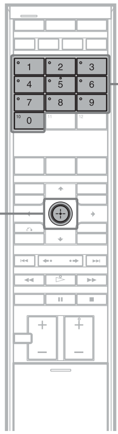
- [モード1]：画像が上から下に向かって表示されます。
- [モード2]：画像が左から右に向かって表示されます。
- [モード3]：画像が画面中央から外側に向かって表示されます。
- [モード4]：ランダムに選ばれたスライド効果が適用されます。
- [モード5]：次の画像が前の画像に重なって表示されます。
- [切]：スライド効果を使いません。

4 (決定)を押す。

プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う
（PBC再生）

VIDEO CD

PBC（Playback Control）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビに表示される選択用のメニューにしたがってビデオCDの再生を進めていくことです。



1 PBC対応ビデオCDを再生する。

テレビに、選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を数字ボタンで選ぶ。

3 ⊕（決定）を押す。

4 テレビに表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

リターンボタンを押す。

ちょっと一言

- PBC機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭、または数字ボタンを押して再生したいトラックを選んでから、▷または⊕を押します。通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
  PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう一度■を押してから▷を押して再生を始めます。

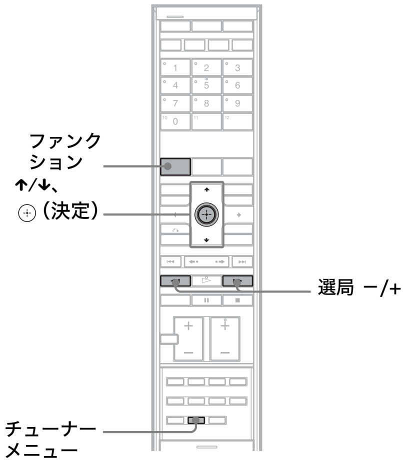
ご注意

- ディスクによっては手順3で⊕（決定）を押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは▷を押してください。

ラジオ

放送局を登録する
（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。受信を始める前に、音量を最小にしてください。



カバーを開けた状態

1　ファンクションボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

2　選局＋/ーボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。コントロールユニットの表示窓に「TUNED」、「STEREO」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3　チューナーメニューボタンを押す。

4　↑/↓で「Memory?」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

5　⊕（決定）を押す。

プリセット番号がコントロールユニットの表示窓に表示されます。



6　↑/↓でプリセット番号を選ぶ。



ちょっと一言
- 数字ボタンを押して、プリセット番号を選択できます。

7　⊕（決定）を押す。

放送局が登録されます。



8　チューナーメニューボタンを押す。

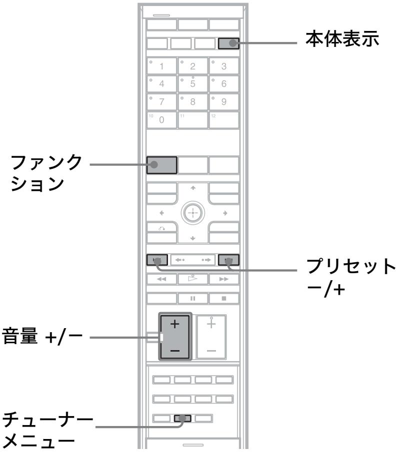
9　手順1～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する」（88ページ）で放送局を登録しておいてください。



カバーを開けた状態

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

ちょっと一言

- 数字ボタンを押して、登録した放送局の番号を選択できます。

3 音量＋/－ボタンを押して、音量を調節する。

ラジオを消すには

リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットの**I/**⏻（電源）ボタンを押す。またはファンクションボタンを押して他のファンクションに切り換える。

登録していない放送局を聞くには

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋または－を繰り返し押す。
自動受信は、リモコンの選局＋または－を押し続ける。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押す。

周波数を知っている放送局を聞くには

手順2でダイレクト選局機能を使います。

1 ダイレクト選局ボタンを押す。

2 数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選ぶ。
「88.0MHz」を選局するときは、次のように数字ボタンを押します。
8 → 8 → 0

3 ⊕（決定）を押す。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 チューナーメニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「FM Mode?」をコントロールユニットの表示窓に表示させ、⊕（決定）または→を押す。

3 ↑/↓で「MONO」を選ぶ。
- 「STEREO」：ステレオ受信にする。
- 「MONO」：モノラル受信にする。

4 ⊕（決定）を押す。
選んだ項目が設定されます。

5 チューナーメニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

次のページへつづく

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前は、放送局が選ばれたときにコントロールユニットの表示窓に表示されます（「XYZ」など）。
それぞれの登録した局には、ひとつの名前しか登録できません。
文字は10文字まで入力できます。

1　ファンクションボタンを繰り返し押して、「FM」か「AM」をコントロールユニットの表示窓に表示させる。

最後に受信した放送局を受信します。

2　プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を受信する。

3　チューナーメニューボタンを押す。

4　↑/↓でコントロールユニットの表示窓に「Name In?」を表示させる。



5　⊕（決定）を押す。

6　←/↑/↓/→で名前をつける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。
文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押す。

7　⊕（決定）を押す。

コントロールユニットの表示窓に「Complete!」が表示され、放送局の名前が登録されます。

8　チューナーメニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 本体表示ボタンを繰り返し押すと、コントロールユニットの表示窓で周波数を確認することができます。

本体の表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機のファンクションが「FM」または「AM」のとき、コントロールユニットの表示窓に周波数を表示させることができます。

本体表示ボタンを押す。

本体表示ボタンを押すたびに、コントロールユニットの表示窓は次のように切り換わります。

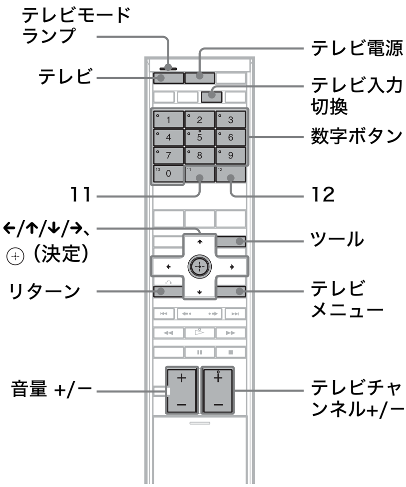
① 放送局名*
② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます（90ページ）。
**数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

その他の機能

付属のリモコンでテレビを操作する

本機のリモコンでお手持ちのテレビの操作ができます。



ご注意

- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に502（SONY）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

リモコンでテレビの操作をする

リモコンのテレビ電源ボタンを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（3桁）を続けて入力し、その後、テレビ電源ボタンを離す。

メーカー番号が設定されると、テレビモードランプがゆっくり2度点滅します。

設定に失敗するとテレビモードランプがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

メーカー番号について

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものを選んでください。

テレビ

メーカー	メーカー番号
SONY	501、502（初期設定）
AIWA	501, 536, 539
AKAI	503
DAEWOO	503, 504, 505, 506, 507, 515
FUJITSU	528
FUNAI	548
GENERAL ELECTRIC	503, 509, 510
GOLDSTAR/LG	503, 512, 515, 517, 568, 576
HITACHI	503, 513, 514, 515, 517, 557
VICTOR	516, 552
MARANTZ	527
MITSUBISHI	503, 519, 527, 566, 568
NEC	503, 520, 527, 554
PANASONIC	509, 524, 553, 572
PHILIPS	515, 518, 557
PIONEER	509, 525, 526, 551, 555
SAMSUNG	503, 515, 517, 531, 532, 534, 556, 557, 566, 569, 574
SANYO	508, 545, 546, 567
SHARP	517, 535, 550, 565
TOSHIBA	535, 539, 540, 541, 551

次のページへつづく

テレビを操作する

以下のボタンでテレビの操作ができます。

押すボタン	できること
テレビ電源	テレビの電源を入/切する。
テレビ入力切換	テレビの入力を切り換える。
音量+/−*	テレビの音量を調節する。
テレビチャンネル+/−	テレビのチャンネルを選ぶ。
数字ボタン*、11*、12*	テレビのチャンネルを選ぶ。
ツール*	操作メニューを表示する。
リターン*	一つ前のチャンネルに戻る。
テレビメニュー *	テレビのメニューを表示する。
←/↑/↓/→*、⊕ *	メニューの項目を選ぶ。

* これらのボタンはリモコンがテレビモードのときにテレビ操作用に使うことができます。テレビモードとは、テレビボタンを押してテレビモードランプが点灯中の状態です。しばらく操作しないとテレビモードランプは自動的に消えます。

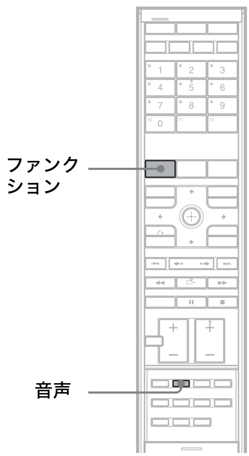
ご注意

- テレビによっては操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- 数字ボタンでの選局は12チャンネルまでになります。

デジタル放送用の音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタルコード（別売り）もしくは同軸デジタルコード（別売り）でつないでください（29、31ページ）。
また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上が確認された上で、下記の操作を行ってください。



カバーを開けた状態

AACの音声を聞く

ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「TV」または「AUDIO IN」を表示させる。

AAC音声信号を出力している機器をつないだファンクションを選びます。
AAC音声信号を認識すると、コントロールユニットの表示窓に「AAC」が点灯しAAC音声を聞くことができます。

ご注意

- ステレオ音声コード（別売り）での接続（23、57ページ）では、AAC音声は楽しめません。

2ヶ国語放送の音声を切り換える

AACが2ヶ国語放送の場合、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声ボタンを押す。

音声ボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- 「MAIN」（主音声）
  主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）
  副音声のみを再生します。
- 「MAIN＋SUB」（主＋副）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

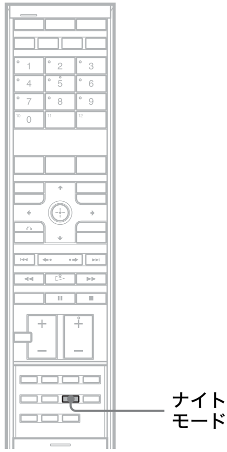
ちょっと一言

- DVD-R/DVD-RWにVRモードで記録された2ヶ国語放送も、この設定で楽しむことができます。

小さな音量で聞く

（ナイトモード）

夜遅くに映画を見るときでも、劇場のような音響効果や台詞を明瞭に聞き取れるようにします。



カバーを開けた状態

ナイトモードボタンを押す。

「NIGHT」がコントロールユニットの表示窓に点灯し、サウンド効果が適応されます。

ちょっと一言

- サウンド効果をより楽しむには、[オーディオDRC]を[スタンダード]または[最大]に設定します（112ページ）。

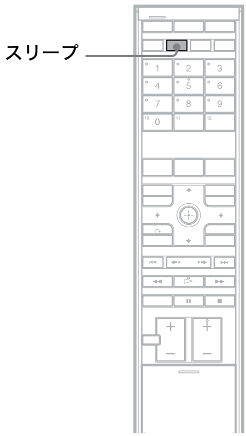
ナイトモードを解除するには

ナイトモードボタンをもう一度押す。

その他の機能

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。
時間は10分間隔で設定することができます。



スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、設定時間が変わり、コントロールユニットの表示窓に表示されます。

SLEEP 90M（90分）
↓
SLEEP 80M（80分）
↓
⋮
SLEEP 10M（10分）
↓
SLEEP OFF

タイマーがセットされるとコントロールユニットの表示窓に「SLEEP」が点滅します。

設定時間を確認するには

スリープボタンを一度押す。

設定時間を変えるには

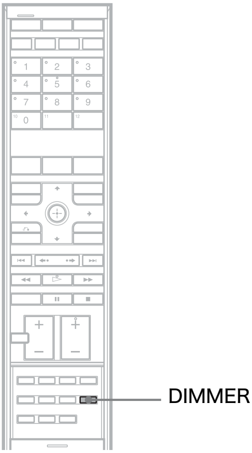
スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更する。

スリープタイマー機能を解除するには

スリープボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「SLEEP OFF」を表示させる。

コントロールユニットの表示窓の明るさを調節する

コントロールユニットの表示窓の明るさを2段階で調節することができます。



カバーを開けた状態

DIMMER（ディマー）ボタンを押す。

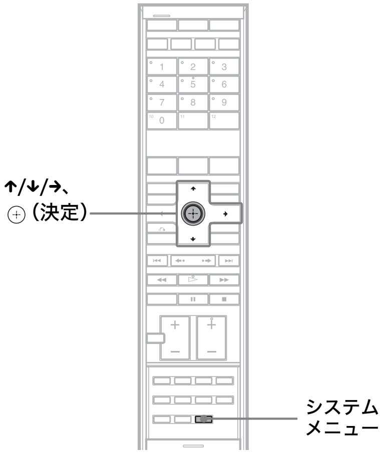
DIMMERボタンを押すたびにコントロールユニットの表示窓の明るさが変わります。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- <u>「DIMMER OFF」</u>：明るい。
- 「DIMMER ON」：コントロールユニットの表示窓の明るさが暗くなる。

表示のしかたを変える

（インフォメーションモード）

コントロールユニットの表示窓の表示のしかたを変えることができます。



カバーを開けた状態

1 システムメニューボタンを押す。

2 ↑/↓でコントロールユニットの表示窓に「INFO MODE」を表示させてから、⊕（決定）または→を押す。

3 ↑/↓でコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- <u>「STANDARD」</u>（標準表示）
  ディスクの種類、トラックナンバー、リピートモード表示、ラジオの周波数など、選んだファンクションの情

次のページへつづく

報を詳しく表示します。表示内容について詳しくは、「コントロールユニットの表示窓」（134ページ）をご覧ください。

- 「SIMPLE」（簡単表示）
  選ばれているファンクション名のみが表示されます。

4 **⊕（決定）を押す。**

選んだ項目が設定されます。

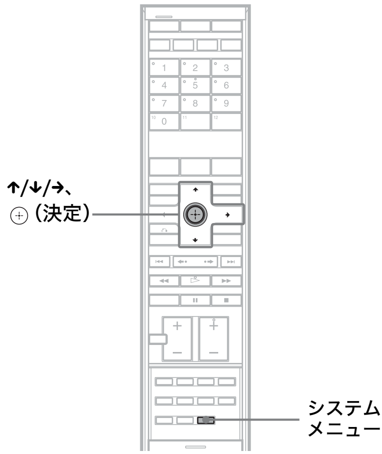
5 **システムメニューボタンを押す。**

システムメニューを終了します。

ソフトタッチボタンの表示のしかたを切り換える

（イルミネーションモード）

コントロールユニット上面のソフトタッチボタンの表示のしかたを変えることができます。



カバーを開けた状態

1 **システムメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓でコントロールユニットの表示窓に「ILLUM MODE」を表示させてから、⊕（決定）または→を押す。**

3 **↑/↓でコントロールユニットの表示窓にお好みの設定を表示させる。**

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- 「STANDARD」（標準表示）
  ソフトタッチボタンが常時点灯します。
- 「SIMPLE」（簡単表示）
  ソフトタッチボタンは触れたときだけ点灯します。操作するときは、一度ソフトタッチボタンに触れてください。ソフトタッチボタンは約10秒間触れないと消灯します。

4 ⊕（決定）を押す。

選んだ項目が設定されます。

5 システムメニューボタンを押す。

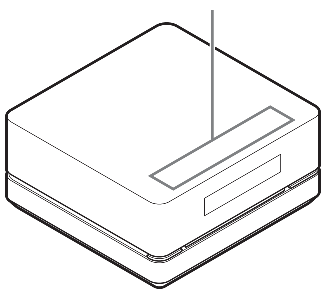
システムメニューを終了します。

ちょっと一言

- 「SIMPLE」（簡単表示）モードが選ばれていても、再生中はコントロールユニット上面の►ボタンが点灯します。

ご注意

- 「SIMPLE」（簡単表示）モードでソフトタッチボタンが消えているときは、まずソフトタッチボタンの領域に触れて点灯させてから、操作してください。



デジタルメディアポートアダプター*を使う

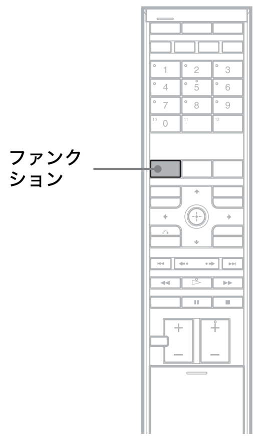
デジタルメディアポートアダプターを使って、携帯用ミュージックプレーヤーの音楽を楽しむことができます。デジタルメディアポートアダプターをつなぐと、本機につないだ機器の音楽を聞くことができます。デジタルメディアポートアダプターの接続について詳しくは、「その他の機器をつなぐ」（30ページ）をご覧ください。

＊ デジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプター以外の機器をつながないでください。
- 本機の電源が入っているときに、デジタルメディアポートアダプターとコントロールユニットをケーブルでつないだり、抜いたりしないでください。

本機につないだ機器を再生する



1 ファンクションボタンを繰り返し押して、「DMPORT」を

次のページへつづく

その他の機能

コントロールユニットの表示窓に表示させる。

2 つないだ機器の再生を始める。

つないだ機器の音楽や映像が、本機や本機につないだテレビで再生されます。操作について詳しくは、デジタルメディアポートアダプター（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機につないだ携帯用ミュージックプレーヤーで、MP3音声トラックや、その他の圧縮されたソースを聞くと、音を増強することができます。サウンドフィールドボタンを繰り返し押して「P. AUDIO」を表示窓に表示させてください。

ディスクの再生を制限する

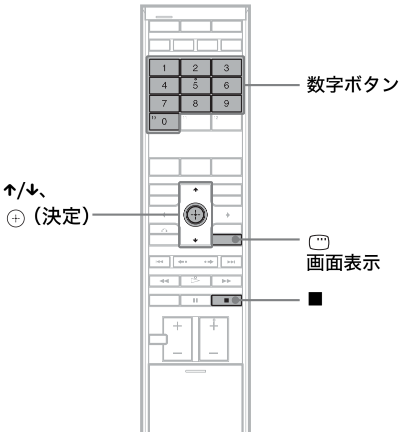
（カスタム視聴制限、視聴制限）

DVD-V VIDEO CD CD

本機には、ディスクの再生を制限する次の2種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴制限
  視聴制限つきDVDビデオの再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴制限も、登録した暗証番号を使って設定します。



カスタム視聴制限—設定する

登録した暗証番号を使って、40枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。41枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1 設定したいディスクを入れる。

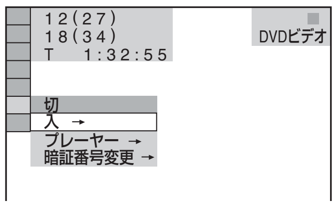
ディスクの再生中は、■を押して再生を止めます。

2 停止中に画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で[視聴制限]を選び、⊕（決定）を押す。

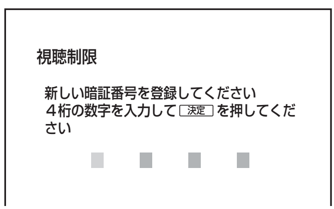
[視聴制限]の項目が表示されます。



4 ↑/↓で[入→]を選び、⊕（決定）を押す。

■暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

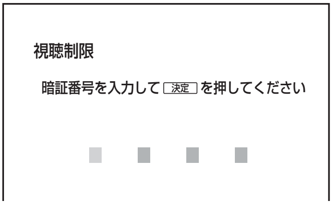


詳細な設定と調整

次のページへつづく

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕を押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号入力の画面が出ます。



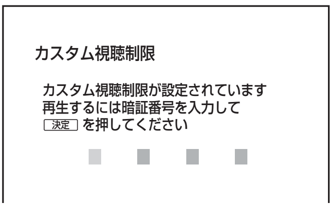
5 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
テレビに[カスタム視聴制限を設定しました]と表示され、コントロールメニュー画面に戻ります。

カスタム視聴制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限―設定する」の手順1から3までを行う。
2 ↑/↓ で[切 →]を選び、⊕（決定）を押す。
3 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

カスタム視聴制限を設定したディスクを再生するには

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
テレビにカスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生できる状態になります。

ちょっと一言
• 暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限の画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力し、⊕（決定）を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

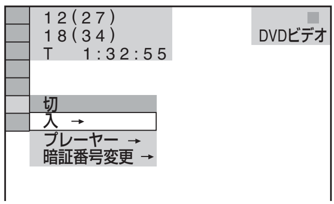
視聴制限―設定する

(DVDビデオのみ)

DVDビデオの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから ⊡ 画面表示ボタンを押す。
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

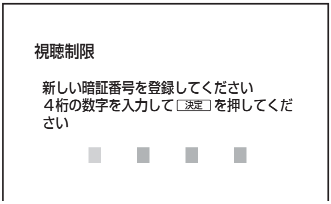
2 ↑/↓ で [視聴制限]を選び、⊕（決定）を押す。
[視聴制限]の項目が表示されます。



3 ↑/↓で[プレーヤー →]を選び、⊕（決定）を押す。

■ 暗証番号が登録されていないとき

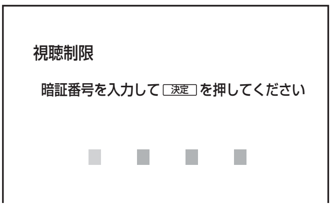
暗証番号登録の画面が表示されます。



数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕ を押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

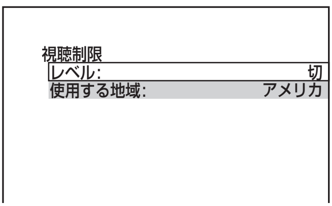
■ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。



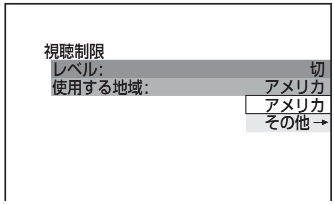
4 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

視聴制限のレベル設定の画面が表示されます。



5 ↑/↓で[使用する地域]を選び、⊕（決定）を押す。

[使用する地域]の項目が表示されます。

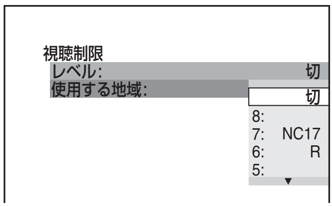


6 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、⊕（決定）を押す。

[その他→]を選んだときは、131ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

7 ↑/↓で[レベル]を選び、⊕（決定）を押す。

[レベル]の項目が表示されます。

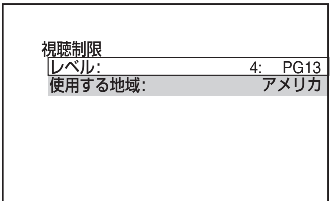


詳細な設定と調整

次のページへつづく

8 ↑/↓で視聴制限レベルを選び、⊕（決定）を押す。

視聴制限の設定が終了します。



レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するときは

手順8で[レベル]を[切]にする。

視聴制限されたディスクを再生するには

1 ディスクを入れて、▷を押す。
テレビに視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。
再生が始まります。

ご注意

- 視聴制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
つづき再生機能（66ページ）が解除されると、設定した元のレベルに戻ります。

ちょっと一言

- 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「カスタム視聴制限―設定する」の手順1～3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して⊕（決定）を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷を押します。テレビに、暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入力します。

暗証番号を変更するには

1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で [視聴制限]を選び、⊕（決定）を押す。

[視聴制限]の項目が表示されます。

3 ↑/↓で[暗証番号変更→]を選び、⊕（決定）を押す。

暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンで４桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

5 数字ボタンで新しい４桁の暗証番号を入力し、⊕（決定）を押す。

6 確認のために、数字ボタンで暗証番号を再度入力し、⊕（決定）を押す。

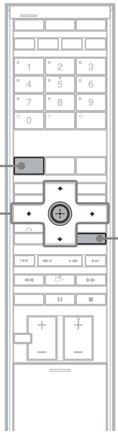
暗証番号の入力を間違えたときは

⊕（決定）を押す前に←を押して、正しい数字を入力する。

自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって自動的に最適なサラウンドサウンドを設定します。



ご注意

- [自動音場補正]が始まると大きな測定音が出ます。測定中は音量の調整ができません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。

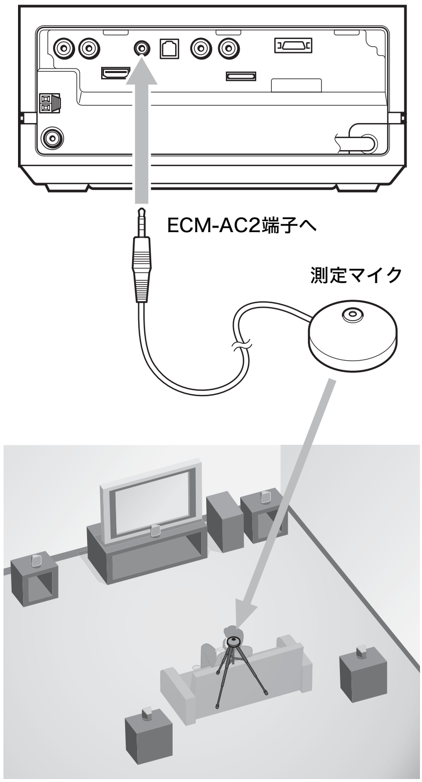
1 コントロールユニット後面のECM-AC2端子に測定マイクをつなぎ、視聴する位置で耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定する。

スピーカーと測定マイクの間に障害物などがないようにしてください。

ご注意

- ECM-AC2端子は付属の測定マイク以外をつながないでください。

コントロールユニット後面



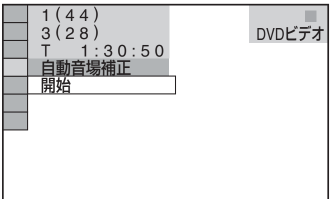
次のページへつづく

2 ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。

3 停止中に画面表示ボタンを押す。

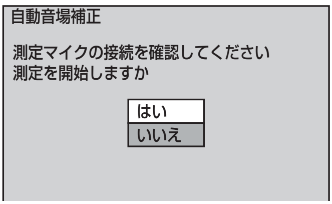
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

4 ↑/↓で [自動音場補正] を選び、(決定)を押す。



5 (決定)を押す。

テレビに[自動音場補正]の設定画面が表示されます。



6 ↑/↓で[はい]を選び、(決定)を押す。

[自動音場補正]が始まります。
測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。



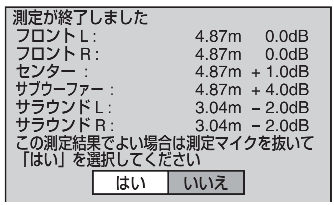
ご注意

- 測定中（約1分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリアは25ページを参照）の外側に出てください。
  測定中はテスト信号がスピーカーから出力されます。
- 壁や床の反響が測定に影響を与える場合があります。
- エラーが表示されたら、メッセージにしたがい、[はい]を選んでください。
  エラーメッセージは以下のときに表示されます。
  ー測定マイクがつながれていない。
  ーフロントスピーカーが正しくつながれていない。
  ーサラウンドスピーカーが正しくつながれていない。
  ーフロントスピーカーとサラウンドスピーカーが正しくつながれていない。

7 ←/↑/↓/→で[はい]または[いいえ]を選び、(決定)を押す。

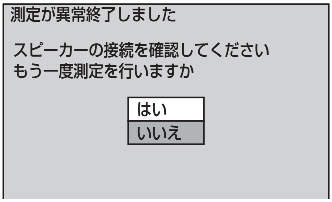
■ 測定の終了

測定マイクを抜き、[はい]を選びます。
測定結果が反映されます。



■ 測定の異常終了

メッセージにしたがい[はい]を選び、もう一度測定を行います。



ご注意

- 自動音場補正中は以下の操作を行わないでください。
  - 電源を切る。
  - ボタンを押す。
  - 音量を変える。
  - ファンクションを切り換える。
  - ディスクを変える。
  - 測定マイクを抜く。

ちょっと一言

- 視聴位置とスピーカーの距離や、スピーカー接続を確認することができます。詳しくは113ページをご覧ください。

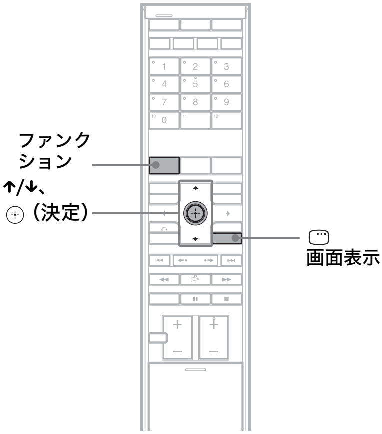
エラーが出たときは

[自動音場補正]測定中にエラーメッセージが表示されたときは、以下の表の「原因と対策」をご覧ください。

エラーメッセージ	原因と対策
[測定マイクの接続を確認してください]	どのチャンネルからも音が検出できませんでした。測定マイクが正しくつながれていることを確認し、再測定してください。 測定マイクが正しくつながれている場合は、測定マイクのコードが断線していることが考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。
[測定マイクの入力レベルが過大です]	測定マイクまたは本機の故障が考えられます。 お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様相談センターにお問い合わせください。
[フロントスピーカーの接続を確認してください]	フロントスピーカーがつながれていません。フロントスピーカーが正しくつながれているか確認してください（18ページ）。
[サラウンドスピーカーの接続を確認してください]	サラウンドスピーカーが1本しかつながれていません。サラウンドスピーカーが正しくつながれているか確認してください（18ページ）。
[フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの接続を確認してください]	フロントスピーカーがつながれておらず、サラウンドスピーカーが1本しかつながれていません。それぞれのスピーカーが正しくつながれているか確認してください（18ページ）。
[サブウーファーの接続を確認してください]	お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

設定画面を使う

DVDファンクション時、テレビに表示される設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は137ページをご覧ください。



ご注意

- あらかじめ再生条件が設定されているディスクがあります。その場合はディスクに記録されている情報が有効になります。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

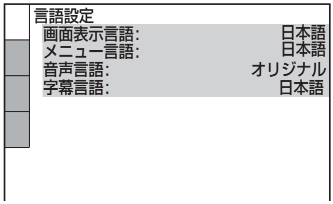
3 ↑/↓で [設定]を選び、⊕（決定）を押す。

[設定]の項目が表示されます。



4 ↑/↓で[カスタム]を選び、⊕（決定）を押す。

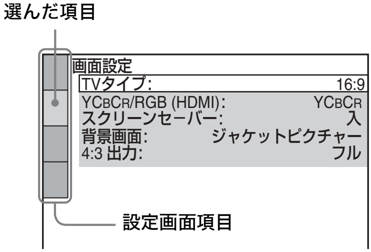
設定画面が表示されます。



5 ↑/↓で[言語設定]、[画面設定]、[視聴設定]、[スピーカー設定]の中から設定したい項目を選び、⊕（決定）を押す。

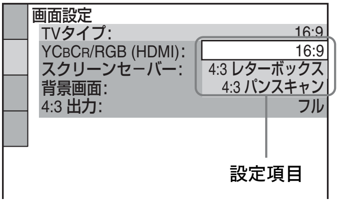
選んだ項目の画面が表示されます。

例：[画面設定]



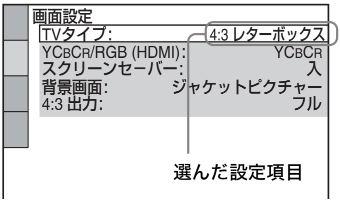
6 ↑/↓で項目を選び、⊕（決定）を押す。

項目の設定項目が一覧表示されます。
例：[TVタイプ]



7 ↑/↓で設定項目を選び、⊕（決定）を押す。

設定項目が選ばれ、設定が終了します。

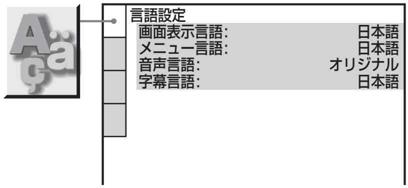


表示言語や音声言語の設定をする

（言語設定）

画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で[言語設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（106ページ）をご覧ください。



■ [画面表示言語]
画面の表示言語を切り換えます。

■ [メニュー言語]（DVDビデオのみ）
メニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ [音声言語]（DVDビデオのみ）
音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[オリジナル]を選んだときは、ディスクで優先されている言語が選ばれます。

■ [字幕言語]（DVDビデオのみ）
字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[音声連動]を選んだときは、字幕言語は、音声の言語に合わせて切り換わります。

次のページへつづく

ご注意

- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で選んだ言語がDVDビデオに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます。（ディスクによっては自動で言語が選ばれないものがあります。）

ちょっと一言

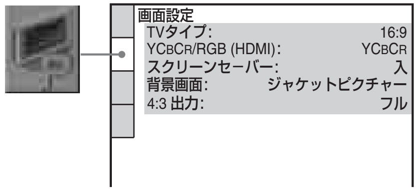
- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で[その他→]を選んだときは、言語コード一覧表（130ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

画像に関する設定をする

（画面設定）

つないだテレビに合わせて画像に関する設定ができます。お買い上げ時の設定は下線の項目です。

設定画面で[画面設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（106ページ）をご覧ください。

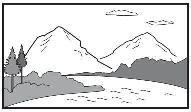


■ [TVタイプ]

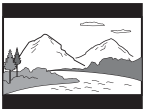
つないだテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは4:3画面テレビ）を設定します。

[16:9]	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
[4:3 レターボックス]	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
[4:3 パンスキャン]	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。

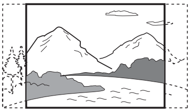
[16:9]



[4:3 レターボックス]



[4:3 パンスキャン]



ご注意

- DVDによっては[4:3 レターボックス]あるいは[4:3 パンスキャン]に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ [YC_BC_R/RGB (HDMI)]

HDMI出力端子から出力される映像信号の種類を選びます。

[YC_BC_R]	YC_BC_R信号を出力します。
[RGB]	RGB信号を出力します。

ご注意

- 画像が乱れる場合は[RGB]に設定してください。
- DVI端子とつないでいるときは、設定に関係なくRGB信号を出力します。

■ [スクリーンセーバー]

本機を操作しない状態で15分以上経過するか、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）を15分以上再生すると、テレビがスクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。ボタン（▷など）を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

[入]	スクリーンセーバーを使います。
[切]	スクリーンセーバーを使いません。

■ [背景画面]

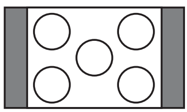
停止中やCD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

[ジャケットピクチャー]	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にします。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、[グラフィックス]の画像が表示されます。
[グラフィックス]	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にします。
[青]	画面の背景色を青にします。
[黒]	画面の背景色を黒にします。

■ [4:3出力]

縦横比の設定を変えることができない16:9のプログレッシブ対応テレビなどで、縦横比4:3のプログレッシブ信号が正しい縦横比で表示されないときに、正しく表示されるように設定することができます。テレビで縦横比を変えることができるときは、本機ではなくテレビ側で設定を変更してください。
この設定は、[画面設定]で[TVタイプ]を[16:9]に設定したときに有効です（108ページ）。

[フル]	お使いのテレビで縦横比が変えられるときに選んでください。
[ノーマル]	お使いのテレビで縦横比が変えられないときに選んでください。16:9の縦横比で、画像の左右に黒い帯がある状態で映し出されます。



縦横比16:9のテレビ画面

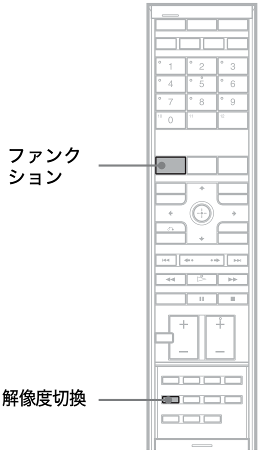
ご注意

- この設定はHDMI出力端子からの出力と、映像出力（コンポーネントD2）端子からのプログレッシブ出力（110ページ）に対してのみ有効です。

次のページへつづく

映像をプログレッシブ信号で出力する

お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している場合は、以下の設定で高画質な映像を楽しむことができます。



カバーを開けた状態

本機がプログレッシブ信号を出力しているときは、コントロールユニットの表示窓に「PROGRESSIVE」が点灯します。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。

2 解像度切換ボタンを押す。
現在の信号がコントロールユニットの表示窓に表示されます。
解像度切換ボタンを押すたびに、次のように表示されます。

「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））
↓
「PROGRE」（プログレッシブ）

■「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））

この設定は、下記の場合に選びます。
– お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応していない。
– 本機の映像出力（映像）端子につながれている。

■「PROGRE」（プログレッシブ）

この設定は、下記のいずれの条件も満たしている場合に選びます。
– お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。
– 本機の映像出力（コンポーネントD2）端子につながれている。

上記の条件を満たしている場合、通常はこの設定を選びます。
本機が自動的に映像素材の種類を検出し、適切なプログレッシブ変換方法を選びます。上記の条件を満たしていない場合にこの設定を選ぶと、映像が乱れたり、映像が画面に出ない場合があります。

ご注意

•本機が「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））に設定されているときに、コントロールユニットとテレビをHDMIケーブルでつなぐと、本機は自動的に「PROGRE」（プログレッシブ）に切り換わります。

ちょっと一言

• コントロールユニットとテレビがHDMIケーブルでつながれているとき、解像度切換ボタンはHDMI出力端子から出力される映像信号を選ぶために使います。詳しくは、「HDMI（high-definition multimedia interface）出力端子のビデオ信号を選ぶには」（111ページ）をご覧ください。

DVDの素材と表示方式について

DVDの映像素材には、ビデオ素材とフィルム素材の2種類があります。ビデオ素材は、1秒30フレーム、60フィールドでDVDに記録されたもので、一般的にテレビドラマやテレビアニメーションなどの番組があります。フィルム素材は、1秒24コマでDVDに記録されたもので、映画フィルムの多くがこれにあたります。DVDの中には、ビデオ素材とフィルム素材の両方が記録されているものがあります。
これらの映像をより自然な画質でお楽しみいただくには、映像素材に合わせた方法でプログレッシブ信号に変換する必要があります。

ご注意

• ビデオ素材のDVDをプログレッシブ信号で再生するとき、映像出力（コンポーネントD2）端子

より出力される映像の切り換わり部分が、表示処理により不自然になる場合があります。また、「PROGRE」（プログレッシブ）設定時にも、23ページのⒶの映像コードでつながれていれば、インターレース形式で出力されるため映像は乱れません。

HDMI（high-definition multimedia interface）出力端子のビデオ信号を選ぶには

コントロールユニットとテレビをHDMIケーブルでつなぐときは、HDMI出力端子から出力される映像信号を選んでください。詳しくは、テレビやプロジェクターなどの取扱説明書をご覧ください。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。

2 解像度切換ボタンを押す。
現在の映像信号がコントロールユニットの表示窓に表示されます。
解像度切換ボタンを押すたびに、次のように表示されます。

「480p*」
↓
「720p*」
↓
「480p*」
↓
「1080i*」

- 「480p*」: [720 × 480p]の映像信号を出力します。
- 「720p*」: [1280 × 720p]の映像信号を出力します。
- 「1080i*」: [1920 × 1080i] の映像信号を出力します。

＊ iはインターレース、pはプログレッシブの略称です。

4：3画面テレビをつないでいるとき

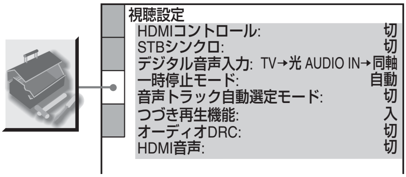
ディスクによっては、映像がテレビ画面に収まらないことがあります。縦横比を変えるには、108ページをご覧ください。

視聴に関する設定をする

（視聴設定）

再生などに関する設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

設定画面で[視聴設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（106ページ）をご覧ください。



■ [HDMIコントロール]
HDMIコントロールの入/切を切り換えます。本機とテレビをHDMIケーブルでつないだときに機能します。詳しくは、「HDMIコントロールの準備をする」（53ページ）をご覧ください。

<u>[切]</u>	[HDMIコントロール]を使いません。
[入]	[HDMIコントロール]を使います。HDMIケーブルでつながれた機器を相互に操作できます。

ご注意
- テレビとHDMI接続をしないで[入]を選ぶと、[HDMIの接続を確認してください]が表示され、[入]を選ぶことができません。

次のページへつづく

■ [STBシンクロ]

[STBシンクロ]機能の入/切を切り換えます。本機とテレビをHDMIケーブルでつなぎ、[HDMIコントロール]を[入]にしたときに機能します。詳しくは、「本機でSTB（セットトップボックス）のデジタルサウンドを楽しむ」（59ページ）をご覧ください。

[切]	[STBシンクロ]機能を使いません。
[入]	[STBシンクロ]機能を使います。

ご注意

- この機能を[入]にすると、[デジタル音声入力]の設定が始まります。

■ [デジタル音声入力]

「TV」ファンクションと「AUDIO IN」ファンクションに応じてデジタル音声の入力を割り当てることができます。

[TV → 光 AUDIO IN → 同軸]	デジタル音声入力光が「TV」ファンクションに、デジタル音声入力同軸が「AUDIO IN」ファンクションに割り当てられます。
[TV → 同軸 AUDIO IN → 光]	デジタル音声入力同軸が「TV」ファンクションに、デジタル音声入力光が「AUDIO IN」ファンクションに割り当てられます。

■ [一時停止モード]（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）

一時停止中の画像を選びます。

[自動]	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られます。通常はこの設定にします。
[フレーム]	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られます。

■ [音声トラック自動選定モード]（DVDビデオのみ）

複数の音声記録方式が用意されているDVDビデオを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラック）を優先して再生できます。

[切]	優先しません。
[入]	優先します。

ご注意

- この設定を[入]にすると、言語が切り換わることがあります。これは[音声トラック自動選定モード]の設定が[言語設定]の[音声言語]（107ページ）より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックの順で優先されます。

■ [つづき再生機能]（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

つづき再生機能の入/切を切り換えます。

[入]	つづき再生するポイントを記録します。
[切]	つづき再生を記録しません。現在本機で再生しているディスクのみ続き再生をします。

■ [オーディオDRC*]（DVDビデオのみ）

サウンドトラックのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。

* Dynamic Range Compressionの略称です。

[切]	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
[スタンダード]	ソフト制作者が意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
[最大]	ダイナミックレンジを最大限に圧縮します。

ご注意

- オーディオDRCはドルビーデジタルソースにのみ対応します。

■ [HDMI音声]

HDMI出力端子から出力される音声信号のタイプを選びます。

[切]	HDMI出力端子から音声は出力されません。
[入]	ドルビーデジタル、DTS、または96kHz/24bit PCM信号を48kHz/16 bit PCMに変換して出力します。

ご注意

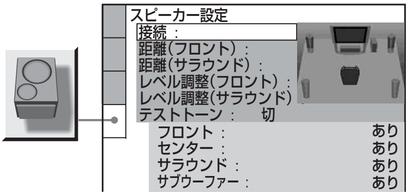
- HDMIケーブルでコントロールユニットとテレビをつなぎ、[入]が選ばれている場合は、テレビへ出力する音声には、オーディオDRC、A/V SYNC、音質調整、ムービー /ミュージックの各機能、またサウンドフィールドが機能しません。

スピーカーに関する設定をする

（スピーカー設定）

サラウンドを充分に楽しむために、スピーカーの接続やリスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

設定画面で[スピーカー設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（106ページ）をご覧ください。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています。



設定を変更している途中で、お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでクリアボタンを押す。
ただし[接続]の設定のみお買い上げ時の設定に戻りません。

■ [接続]

センタースピーカーやサラウンドスピーカーをつながない場合は、[センター]や[サラウンド]を設定し直します。フロントスピーカーとサブウーファーの設定は変えられません。

[フロント]	[あり]
[センター]	[あり]：通常はこの設定にします。 [なし]：センタースピーカーをつながない場合は[なし]にします。

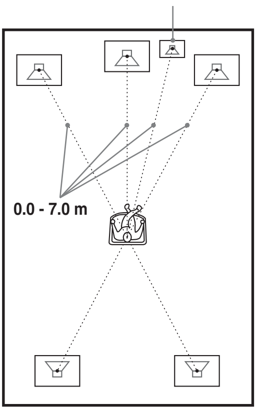
次のページへつづく

[サラウンド]	[あり]：通常はこの設定にします。 [なし]：サラウンドスピーカーをつながない場合は[なし]にします。
[サブウーファー]	[あり]

■ [距離（フロント）]

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

クイック設定（24ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

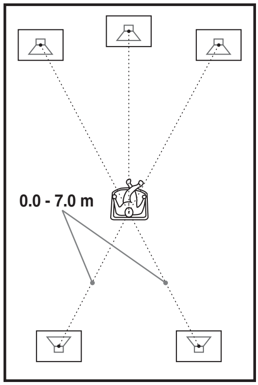
[L/R] 3.0 m*	リスニングポジションからフロントスピーカーの距離を、0.0m～7.0mの範囲で設定できます。
[センター] 3.0 m* ([接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ)	リスニングポジションからセンタースピーカーの距離を、0.0m～7.0mの範囲で設定できます。
[サブウーファー] 3.0 m*	リスニングポジションからサブウーファーの距離を、0.0m～7.0mの範囲で設定できます。

* クイック設定（24ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

■ [距離（サラウンド）]

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

クイック設定（24ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

[L/R] 3.0 m* ([接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ)	リスニングポジションからサラウンドスピーカーの距離を、0.0m～7.0mの範囲で設定できます。

* クイック設定（24ページ）を行うと、お買い上げ時の設定値は変更されます。

ご注意

- [距離]の設定は入力信号によって無効になることもあります。
- 設定した距離が推奨範囲を超えているときは、[⚠↑/⚠↓ XX m]が表示されます。⚠↑は、推奨範囲より大きいとき、⚠↓は小さいときに表示されます。

■ [レベル調整（フロント）]

フロントスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは[テストトーン]を[入]にしておきます。

[L/R] 0.0 dB	−6.0dB～+6.0dBの範囲で設定できます。
[センター] 0.0 dB （[接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ）	−6.0dB～+6.0dBの範囲で設定できます。
[サブウーファー] 0.0 dB	−6.0dB～+6.0dBの範囲で設定できます。

■ [レベル調整（サラウンド）]

サラウンドスピーカーのレベルは次のように調整できます。調整するときは[テストトーン]を[入]にしておきます。

[L/R] 0.0 dB （[接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ）	−6.0dB～+6.0dBの範囲で設定できます。

すべてのスピーカーの音量を一度に変えるには

リモコンの音量＋/−ボタンまたはコントロールユニットのVOLUME＋/−ボタン（ソフトタッチボタン）で調整する。

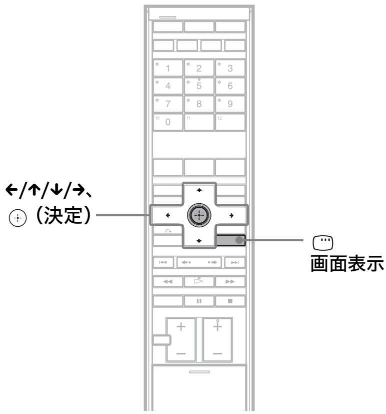
■ [テストトーン]

[レベル調整（フロント）]や[レベル調整（サラウンド）]を調節するために、テストトーンを聞くことができます。

[切]	テストトーンは出ません。
[入]	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。[スピーカー設定]の項目を調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

テストトーンでスピーカーのバランスとレベルを調節する

音のバランスやレベルを合わせるために、テストトーンを使って実際に音を聞きながら調整することができます。
テストトーンの音量はリモコンの音量＋/−ボタンまたはコントロールユニットのVOLUME＋/−ボタン（ソフトタッチボタン）で調整することができます。



1 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で [設定]を選び、⊕（決定）を押す。

[設定]の項目が表示されます。

3 ↑/↓で[カスタム]を選び、⊕（決定）を押す。

設定画面が表示されます。

4 ↑/↓で[スピーカー設定]を選び、⊕（決定）または→を押す。

次のページへつづく

5 ↑/↓で[テストトーン]を選び、⊕（決定）または→を押す。

6 ↑/↓で[入]を選び、⊕（決定）を押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

7 リスニングポジションで、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように、←/↑/↓/→を押して[レベル調整（フロント）]および[レベル調整（サラウンド）]の設定を調節する。

レベル調整している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

8 調節が終わったら、⊕（決定）を押す。

すべてのスピーカーについて行ってください。

9 すべてのスピーカーの調整が終わったら、↑/↓で[テストトーン]を選び、⊕（決定）を押す。

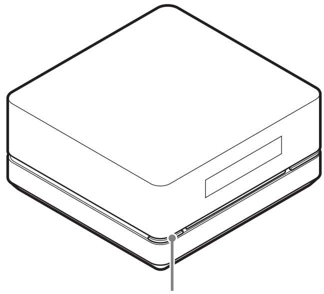
10 ↑/↓で[切]を選び、⊕（決定）を押す。

ご注意

- テストトーンはHDMI出力端子からは出力されません。

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

サウンドフィールドやラジオなどの設定をお買い上げ時の設定に戻す



1 本機の電源を切る。

2 コントロールユニットのI/⏻（電源）を約5秒間押し続ける。

約10秒間「MEMORY CLR」と「PUSH POWER」がコントロールユニットの表示窓に交互に表示されます。

3 I/⏻（電源）ボタンを押す。

「CLEARING」が表示窓に表示され、設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。「CLEARED!」が表示された後、本機の電源が切れます。

ご注意

- 手順3で、コントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押さなかったり、I/⏻（電源）以外のボタンを押したりすると、本機の電源が入ります。お買い上げ時の設定に戻りません。
- お買い上げ時の設定に戻したあとに電源を入れるときは、約20秒待ってから、リモコンの電源ボ

タンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。

設定画面での設定をお買い上げ時の設定に戻す

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、コントロールユニットの表示窓に「DVD」を表示させる。

2 ディスクの再生中は、再生を止めてから画面表示ボタンを押す。
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓で[設定]を選び、⊕（決定）を押す。
[設定]の項目が表示されます。

4 ↑/↓で [リセット]を選び、⊕（決定）を押す。

5 ↑/↓で [はい]を選ぶ。
ここで[いいえ]を選ぶと、リセット作業をやめてコントロールメニュー画面に戻ることもできます。

6 ⊕（決定）を押す。
107〜116ページで説明する設定がすべてお買い上げ時の設定に戻ります。リセットが完了するのに数秒かかります。リセットしている間は、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押さないでください。

ご注意

- リセットしたあとに電源を入れ、コントロールユニットにディスクが入っていないときは、ガイドメッセージがテレビ画面に表示されます。⊕（決定）を押すと、クイック設定を行います（24ページ）。クリアボタンを押すと通常の画面に戻ります。
- 「BASS」、「MIDDLE」、「TREBLE」の設定もお買い上げ時の設定に戻ります。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

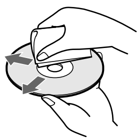
- 再生面に手を触れないように持ちます。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

→ 電源コードやシステムコントロールコードなどがしっかりつながれているか確認する。
→ すべての表示がコントロールパネルの表示窓から消えてから、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押す。
→ 電源コードをつないで約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。

「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が、コントロールユニットの表示窓に交互に表示される。

→ リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。
  - スピーカーコードが正しくつながれているか？（20、35ページ）
  - 付属のスピーカーを使っているか？
  - 通気孔がふさがれていないか？

上記の項目を点検する。「STANDBY」が消えたら、約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはコントロールユニットのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

映像

映像が出ない。

→ 映像コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
→ 映像コードが断線している。
→ テレビの入力端子を間違えている（23、27ページ）。
→ テレビの入力切り換えで本機の映像が映るように切り換えていない。
→ プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、プログレッシブ設定にしている。その場合は、「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））(お買い上げ時の設定)にする（110ページ）。
→ プログレッシブ方式に対応しているテレビでも、プログレッシブに設定すると画像が乱れる場合がある。その場合は、「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））(お買い上げ時の設定)にする（110ページ）。
→ 接続コードをもう一度しっかりつなぎなおす。
→ HDMIでつなぐ場合、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応していない機器に本機をつないでいる（コントロールユニットの表示窓に「HDMI」が点灯していない）（134ページ）。
→ HDMI出力端子を映像出力に使用している場合、リモコンの解像度切換ボタンを押して、HDMI出力端子から出力される映像信号を切り換えると映像が出ることがある（111ページ）。
テレビとコントロールユニットをHDMI出力端子以外のビデオ端子でつなぎ、設定画面が映るように、テレビの入力をつないだ映像の入力に切り換える。HDMI出力端子から出力される映像信号を切り換え、テレビの入力をHDMIに戻す。それでも映像が出ない場合は、手順を繰り返すか、他の項目を確認する。
→ プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、リモコンの解像度切換ボタンを押して「PROGRE」（プログレッシブ）を選んでいる（コントロールユニットの表示窓に「PROGRESSIVE」が点灯している）。
この場合、HDMIケーブルをコントロールユニットから抜き、「PROGRESSIVE」ではなく「INTERLACE」（ノーマル（インターレース））を選ぶ。
→ 映像出力（映像）端子から出力される映像が乱れる場合、リモコンの解像度切換ボタンを押して、HDMI出力端子から出力される映像信号を[720 × 480p] にする（111ページ）。
→ DVDファンクション時（ファンクションボタンで「DVD」を選んでいる状態）のみ、映像出力（コンポーネントD2）端子からは映像信号を出力し、HDMI出力端子からは映像/音声信号が出力される。

映像が乱れる。

→ ディスクに汚れや傷がある。
→ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビにつないでいると、一部のDVDプログラムに使われているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接つなぐ（23、27ページ）。
→ 本機が安定した場所に設置されているか確認する。

設定画面の[画面設定]の[TVタイプ]で設定した画像の形で再生できない。

→ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

テレビ画面に色むらが起きる。

→ 本機のサブウーファーとフロントスピーカーは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用しているが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じる。色むらが起きた場合は、以下の項目を確認する。
  - ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使う場合は充分に（約30cm）離す。
  - それでも色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れる。
  - ハウリングが生じたら、スピーカーをテレビより離して置く。
  - スピーカーの近くに磁気を発生するものがないように注意する。スピーカーとの相互作用により、色むらを起こす場合が

次のページへつづく

ある。磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

音声

音が出ない。

→ スピーカーコードが本機にしっかり差し込まれていない（20ページ）。
→ コントロールユニットの表示窓に「MUTING ON」と表示されている場合は、リモコンの消音ボタンを押す。
→ 一時停止、スロー再生になっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
→ 早送り、早戻しになっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
→ スピーカーが正しくつながれているか確認する（18ページ）。
→ 本機のHDMI出力端子につないだ機器が、音声信号を認識していないときは、[視聴設定]の[HDMI音声]を[入]に設定する（113ページ）。

HDMI出力端子から音が出ない。

→ [視聴設定]の[HDMI音声]を[入]に設定する（113ページ）。
→ 本機のHDMI出力端子をDVI(Digital visual interface)デバイスを持った機器につなぐと、音声は出力されない。
→ 以下の方法を試す。
- 本機の電源を入れなおす。
- つないでいる機器の電源を入れなおす。
- HDMIケーブルをいったん抜いて差しなおす。

左右のスピーカーのバランスが悪い、または音声が逆になっている。

→ スピーカーやつないだそのほかの機器が正しくつながれているか確認する。
→ 自動音場補正を行う（103ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。

→ スピーカーおよび各機器が正しくつながれているか確認する。
→ 接続コードをモーターなどの機械、テレビ、または蛍光灯などから離す。
→ テレビからオーディオ機器を離して設置する。
→ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。
→ ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）を再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

→ 音声ボタンを押して、音声を[ステレオ]にする（72ページ）。
→ コントロールユニットが正しくつながれているか確認する。

サラウンド効果が得られない。

→ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（49ページ）。
→ スピーカーの接続と配置を確認する（18、113ページ）。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

センタースピーカーからしか音が出ない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（18、113ページ）。
→ ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（18、113ページ）。
→ サウンドフィールドを「OMNI-DIRECTIONAL SOUND」以外にする（49ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、センタースピーカーの音が小さく記録されているものがある。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。

→ スピーカーの接続と設定を確認する（18、113ページ）。
→ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（49ページ）。
→ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがある。
→ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

音声の始まりが途切れる。
→ 映画や音楽のサウンド効果を「MOVIE」または「MUSIC」に設定する（44ページ）。
→ サウンドフィールドを「A.F.D. STD」にする（49ページ）。

操作

放送局が受信できない。
→ アンテナが正しくつながれているか確認する。
アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。
→ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。
→ プリセットしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（88ページ）。
→ 受信している周波数を確認する。

リモコンで操作できない。
→ リモコンとコントロールユニットとの間に障害物がある。
→ リモコンとコントロールユニットとの距離が離れすぎている。
→ コントロールユニットのリモコン受光部に向けて操作していない。
→ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。
→ ディスクが入っていない。
→ ディスクが裏返しに入っている。
ラベル面を上に向ける。
→ ディスクが斜めにずれて入っている。
→ CD-ROMなどの、本機で再生できないディスクを入れている（10ページ）。
→ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。
→ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める。
→ ディスクが正しく書き込みされていない。
→ ディスクに汚れ、傷がある。
→ 規格から外れた一部ディスクは、本機では再生できない場合がある。
ある特定のディスクが再生できない場合は、裏表紙に書かれているソニーの相談窓口まで問い合わせる。

MP3音声トラックが再生できない。
→ ISO9660レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Joliet に準拠していないMP3音声トラックが記録されている。
→ データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないMP3音声トラックが記録されている。
→ 拡張子が「.MP3」になっていない。
→ 拡張子は「.MP3」だが、MP3音声トラック以外のデータ形式になっている。
→ データがMPEG1 Audio Layer 3でない。
→ 本機は MP3PROで記録された音声は再生できない。
→ [音声映像選択モード]設定が[映像(JPEG)]に設定されている（84ページ）。
→ [音声映像選択モード]設定を[音声(MP3)]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

JPEG画像ファイルが再生できない。
→ ISO9660レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Jolietに準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。
→ データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。
→ 拡張子が「.JPG」または「.JPEG」になっていない。
→ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。
→ 横3,072×縦2,048ドット以上、または200万画素を超えるプログレッシブJPEG画像ファイル（主にインターネットのウェブサイトで使用）は表示できない。
→ [音声映像選択モード]設定が[音声（MP3)]になっている（84ページ）。
→ [音声映像選択モード]設定を[映像（JPEG)]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生が同時に始まる。
→ [音声映像選択モード]設定で[自動]が選ばれている（84ページ）。

次のページへつづく

JPEG画像ファイルのアルバム/ファイル名が正しく表示されない。
➔ コントロールユニットの表示窓で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は「＊」と表示される。

再生がディスクの最初から始まらない。
➔ プログラムまたはシャッフル、リピート再生になっている。ディスクを再生する前にクリアボタンを押してこれらの機能を解除する。
➔ リジューム再生になっている。停止中に、コントロールユニットまたはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（66ページ）。
➔ 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。
➔ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

再生が自動的に止まる。
➔ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生などの操作ができない。
➔ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて確認する。

希望する言語で画面表示されない。
➔ 設定画面の[言語設定]の[画面表示言語]で希望の言語を選ぶ（107ページ）。

音声言語を変更できない。
➔ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
➔ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。
➔ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
➔ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。
➔ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。
➔ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない（78ページ）。
➔ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

ディスクを取り出すことができず、表示窓に「LOCKED」と表示される。
➔ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

データCD/データDVDを再生中に、テレビ画面に[データエラー（AUDIO）]または[データエラー（IMAGE）]と表示される。
➔ 再生しようとしているMP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルが壊れている。
➔ データがMPEG1 Audio Layer 3でない。
➔ JPEG画像ファイルがDCFフォーマットでない。
➔ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

本機が正常に作動しない。
➔ サブウーファーの電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れる。

表示窓に「DEMO PLAY」と表示される。
➔ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

HDMIコントロールが作動しない。
➔ 表示窓に「HDMI」と点灯しない場合は、HDMI接続を確認する（27ページ）。
➔ [視聴設定]の[HDMIコントロール]を[入]にする（54、111ページ）。
➔ つないだそのほかの機器がHDMIコントロールに対応しているか確認する。
➔ つないだそのほかの機器の電源コードがしっかりつながれているか確認する。
➔ つないだそのほかの機器のHDMIコントロールの設定を確認する。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

→ HDMI接続を変えた場合や、電源コードをコンセントにつないだり抜いたりした場合、停電になった場合は、[視聴設定]の[HDMIコントロール]を[切]にしてから、[視聴設定]の[HDMIコントロール]を[入]にする（54、111ページ）。

→ HDMIコントロールについて詳しくは「HDMIコントロールの準備をする」（53ページ）をご覧ください。

システムオーディオコントロール機能を使用中に本機とテレビから音が出ない。

→ つないだテレビがシステムオーディオコントロール機能に対応しているか確認する。

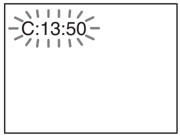
→ システムオーディオコントロール機能について詳しくは「テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ」（57ページ）をご覧ください。

→ 接続を確認する。

自己診断機能

（コントロールユニットの表示窓に文字や数字が表れたとき）

本機を故障から守るために、本機には自己診断機能がついています。コントロールユニットの表示窓またはテレビに、「C 13 50」のような5文字のサービスナンバーが現れたときは、以下の項目を確認してください。



サービスナンバーの最初の3文字	原因と対応
C13	• ディスクが汚れている。 → 柔らかい布でディスクを拭く（118ページ）。 • ディスクが本機で再生できないフォーマットになっている。
C31	ディスクが正しく入っていない。 → 本機の電源を切り、再び入れた後にディスクを正しく入れなおす。
E XX （XXは数字）	故障を防ぐために、自己診断機能が働いている。 → お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。そのときは、5つのサービスナンバーを知らせる。 例：E 61 10

次のページへつづく

テレビにバージョン番号が表示されたときは

本機の電源を入れたときに、テレビにバージョン番号[VER.X.XX]（Xは数字）が表示されることがあります。この表示はソニーサービスで使うものなので、故障ではありませんが、そのままでは通常の操作はできません。電源を入れなおしてから操作してください。



保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、DVDホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DAV-IS10
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

総合出力

実用最大出力* フロント部：45W+45W （10Ω、JEITA**）
センター部：45W (10Ω、JEITA**)
サラウンド部：45W（1チャンネルあたり）(10Ω、JEITA**)
サブウーファー部：100+100W (4Ω、JEITA**)
サウンドフィールドやソースによっては出力しない場合があります。

入力（アナログ）

TV（音声入力）

感度：450/250mV RMS

入力（デジタル）

AUDIO IN（同軸）

インピーダンス：75Ω

CD/DVD部

レーザー	半導体レーザー（CD/DVD：λ＝645－660nm）（CD：λ＝770－800nm）放出持続時間：連続
信号方式	JEITA**標準*、NTSCカラー方式

チューナー部

回路方式	PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式

FMチューナー部

受信周波数	76.0－90.0MHz（100kHz間隔）
アンテナ	ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
中間周波数	10.7MHz

AMチューナー部

受信周波数	531－1,602kHz（9kHz間隔）
アンテナ	ループアンテナ
中間周波数	450kHz

映像部

出力 映像：1Vp-p 75Ω
コンポーネントD2 映像：
Y: 1Vp-p 75Ω、
C_B, C_R: 0.7Vp-p 75Ω
HDMI出力：Type A (19 pin)

その他

次のページへつづく

スピーカー
フロント/センター/サラウンド（SS−IS10）

方式	密閉型（JEITA**）
形状	35mm
定格インピーダンス	10Ω
最大外形寸法	45×55×40mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約0.07kg
スピーカーコード	4.5m×2、3m×1、12m×2

サブウーファー（SA−WSIS10）

方式	バスレフ型（JEITA**）
形状	120mm＋160mm
定格インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	190×450×450mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約13.5kg
電源	AC 100V、50/60HZ
消費電力	130W （スタンバイモードのとき：0.3W）

コントロールユニット（HCD−IS10）

最大外形寸法	215×105×207mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約3.0kg
電源出力（デジタルメディアポート）	DC OUT：5V、700mA

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
** JEITA（電子情報技術産業協会）

同梱物

「同梱物を確認する」（13ページ）をご覧ください。

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力　0.3W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- 主なキャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善

用語解説

アルバム
MP3音声トラックやJPEG画像ファイルを記録しているデータCDの中の単位の1つ。

インターレース（飛び越し走査）
通常のテレビ放送のNTSC方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現している。1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。従来のテレビの表示方式。

シーン
PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

視聴制限
国ごとの規制レベルに合わせて、視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDビデオの機能。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

自動音場補正（D. C. A. C.）
ソニーが開発した自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration)は、スピーカーの距離やレベルを自動的に測定し、短時間で視聴環境のスピーカー設定を調整する。

タイトル
DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）
著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL 表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チャプター
DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック
ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

ドルビープロロジック II
ドルビープロロジックIIは、ソース本来の音質を損なうことなく空間的広がりを引き出す高音質、高性能のマトリックスサラウンドデコーダである。マトリックス処理により、2チャンネルソースをフルレンジの5チャンネルサラウンドに広げて再生する。

■ ミュージックモード
ミュージックモードでは、センター音像調整機能、前後バランス調整機能を使って包囲感のある音場設定が可能です。あらゆるステレオ音楽ソースに適しています。

次のページへつづく

■ ムービーモード
ムービーモードではフロントとサラウンドのセパレーションを高めるためにサラウンドチャンネルディレイが加えられており、安定した音場定位を得ることができます。通常のステレオソース、ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの両方に適しています。

ビデオCD

動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」（エムペグ1）を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。

ビデオ素材、フィルム素材

DVD の映像素材の種類。ビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどのテレビ放送された番組（1秒30フレーム、60フィールド）をDVD に記録したもの。フィルム素材とは映画フィルム（1秒24コマ）をDVD に記録したもの。

ファイル

JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つ。

プレイバックコントロール（PBC）

ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

プログレッシブ（順次走査）

通常のテレビ放送のNTSCインターレース方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現し、1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。これに対してプログレッシブ方式の場合は、走査線を飛び越すことなく、NTSCで言えば525本の走査線を使って、1秒間に60枚の画像を映し出す。細かな文字や横線などの多い場面などで高画質な映像を再現できる。

マルチアングル

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

D2映像信号

D端子付きデジタルテレビなどと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号でつなぐため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3とD4端子がある。本機には映像出力（コンポーネントD2）端子（525i(480i)、525p(480p)の信号に対応*）が付いており、D1、D2、D3およびD4端子付きデジタルテレビなどに対応している 。

* iはインターレースの略。pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

DVD

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB（Gigaギガ Byteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタル、DTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。

DVD-RW

DVD-RWとは、DVDビデオと同じサイズで、データの記録、書き換えが可能なディスク。
DVD-RWにはVRモードとビデオモードの2つのモードがある。ビデオモードで作られたDVD-RWはDVDビデオと同じフォーマットなのに対して、VRモードで作られたDVD-RWはプログラム、または編集が可能なディスクとなっている。

DVD+RW

DVD+RWとは、データの記録、書き換えが可能なディスクで、DVDビデオと同程度の記録方式を使っている。

HDMI

HDMIでは、1本のデジタルケーブルで、映像、音声の両方をつなぐことができる。
HDMI接続をすれば、高画質の映像と、マルチチャンネル音声の信号を、HDMIに対応したAV機器（テレビなど）にデジタルの信号を送ることができる。映像信号が現在のDVIに対応していれば、HDMI-DVI変換コードを使ってHDMI出力端子とDVI端子をつなぐことが可能。HDMIはHDCP著作権保護機能に対応しており、デジタル画像信号コーディングテクノロジーを採用している。

言語コード一覧表

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

Code	Language
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Byelorussian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan)Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu
1703	無指定

視聴制限地域コード

地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

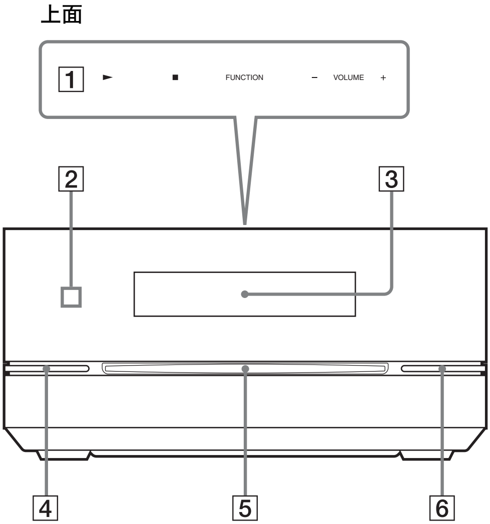
次のページへつづく

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

コントロールユニット

前面



1 ソフトタッチボタン（► (再生)/■ (停止)/FUNCTION（ファンクション）/VOLUME－/＋（音量)）(36)

2 リモコン受光部（14）

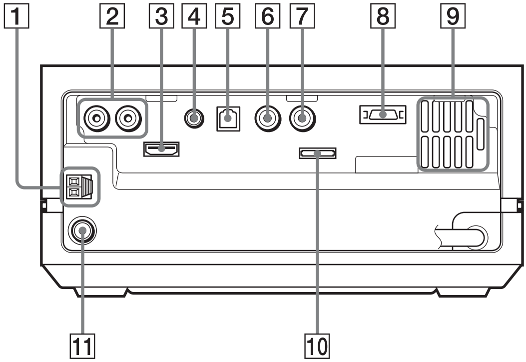
3 表示窓（134）

4 I/⏻（電源）ボタン（36）

5 ディスクスロット（36）

6 ⏏（イジェクト）ボタン（36）

後面



1 AMアンテナ端子（18）

2 TV（音声入力）端子（23）

3 HDMI出力端子（27）

4 ECM-AC2端子 (24、103)

5 TV（デジタル音声入力光）端子（29）

6 AUDIO IN（デジタル音声入力同軸）端子（30）

7 映像出力（映像）端子（23、27）

8 映像出力（コンポーネントD2）端子（27）

9 通気孔

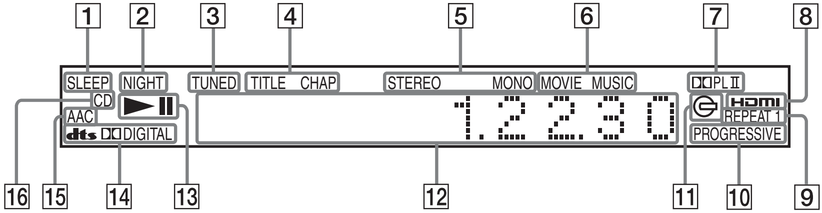
10 デジタルメディアポート端子*（DMPORT端子）（30、97）

11 FM75Ω同軸アンテナ端子（18）

* この端子に接続するデジタルメディアポートアダプターは今後発売を予定しています。

コントロールユニットの表示窓

表示についての説明



1 スリープタイマーセット時に点灯（94）

2 ナイトモードセット時に点灯（93）

3 ラジオ受信中に点灯（88）

4 現在のタイトル/チャプター（DVD再生時のみ）（75）

5 ステレオ/モノラル表示（ラジオ受信時のみ）（89）

6 MOVIE（ムービー）またはMUSIC（ミュージック）モード選択時に点灯（44）

7 現在の音声の状態

8 HDMI出力端子とほかの機器のHDCP準拠のHDMIまたはDVI入力端子と正しくつながれているときに点灯（27）

9 現在のリピートモード（70）

10 プログレッシブ信号出力時に点灯（DVDファンクション時のみ）（110）

11 ディスクがコントロールユニット内にあるときに点灯（DVDファンクション時のみ）

12 本機の状態を表示（チャプター、タイトル、トラック番号、時間情報、ラジオ周波数、再生状態、サウンドフィールドなど）

13 再生状態（DVDファンクション時のみ）

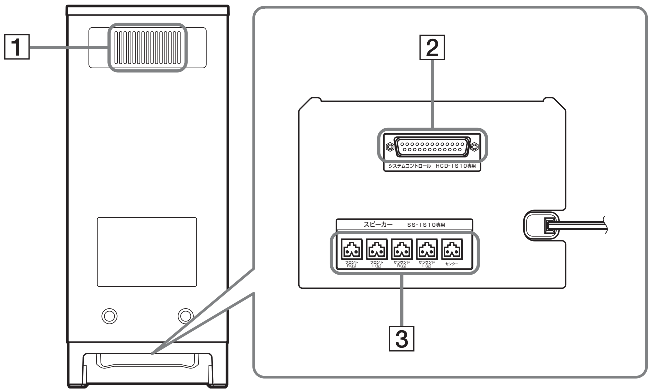
14 現在の音声の状態

15 AAC音声信号を受信中に点灯（92）

16 CDまたはデータCDがコントロールユニット内にあるときに点灯

サブウーファー

サブウーファー底面



1 通気孔

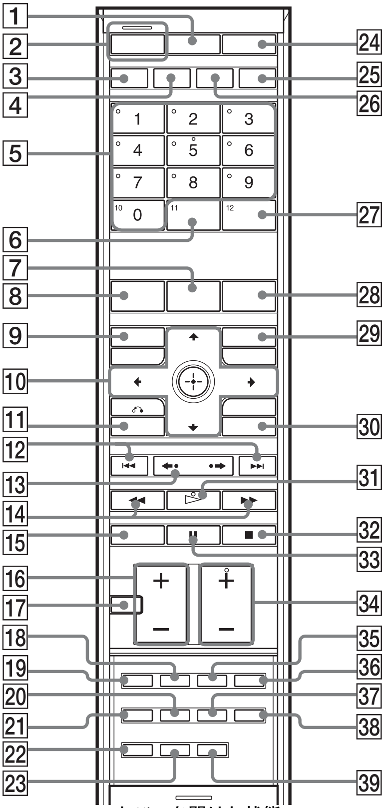
2 システムコントロール端子（18）

3 スピーカー端子（18）

その他

次のページへつづく

リモコン



カバーを開けた状態

1 テレビ電源 (92)

2 テレビボタン/テレビモードランプ (92)

3 ⏏（イジェクト）(36)

4 スリープ (94)

5 数字ボタン*2*3(63、92、99)

6 クリア*3 (63)

7 音質調整（51）

8 ファンクション（36、88、97、103）

9 DVDトップメニュー (72)

10 ←/↑/↓/→、⊕（決定）*3 (24、40、51、54、63、88、92、99)

11 ↶ リターン*3 (65、92)

12 ⏮/⏭ (36)
プリセット－/＋ (89)

13 ←•/•→ (36)
◀II/II▶ ステップ (63)

14 ◀◀/▶▶ (62)
◀I/I▶ (63)
選局 －/＋ (88)

15 くり返し（70）

16 音量 ＋/－*3 (36、89、92)

17 消音 (36)

18 音声*2 (72、92)

19 ピクチャーナビ (65)

20 ムービー /ミュージック (44)

21 解像度切換（110）

22 ダイレクト選局 (89)

23 チューナーメニュー（88、138）

24 電源 (24、36、66)

25 本体表示（75、89）

26 テレビ入力切換（92）

27 決定*1*3 (24、40、51、54、63、88、92、99)

28 サウンドフィールド（42、49）

29 DVDメニュー (72)
ツール*3 (92)

30 ▭ 画面表示 (26、46、54、63、99)
テレビメニュー *3 (92)

31 ▷ (再生)*2 (36、56、62)

32 ■ (停止) (36、66、99)

33 II (一時停止) (36)

34 テレビチャンネル＋/－*2（92）

35 字幕 (78)

36 アングル (78)

37 ナイトモード（93）

38 DIMMER（ディマー）（95）

39 システムメニュー（40、95、138）

*1 決定ボタン 27 は⊕（決定）10 と同じ機能です。
*2 数字ボタンの 5、▷、テレビチャンネル+、音声ボタンには突起がついています。本機を操作するときの参考にしてください。
*3 これらのボタンはリモコンがテレビモードのときにテレビ操作用に使うことができます。テレビモードとは、テレビボタン 2 を押してテレビモードランプ 2 が点灯中の状態です。

設定画面項目一覧表

設定画面で以下の項目を設定することができます。
表示される画面の順番は、実際の画面と異なる場合があります。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

言語設定

- 画面表示言語
  - 日本語
  - ENGLISH
- メニュー言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 音声言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 字幕言語
  - 表示される言語の一覧から選びます

視聴設定

- HDMI コントロール
  - 切
  - 入
- STBシンクロ
  - 切
  - 入
- デジタル音声入力
  - TV→光 AUDIO IN→同軸
  - TV→同軸 AUDIO IN→光
- 一時停止モード
  - 自動
  - フレーム
- 音声トラック自動選定モード
  - 切
  - 入
- つづき再生機能
  - 入
  - 切
- オーディオDRC
  - 切
  - スタンダード
  - 最大
- HDMI音声
  - 切
  - 入

画面設定

- TVタイプ
  - 16:9
  - 4:3レターボックス
  - 4:3パンスキャン
- YCBCR/RGB (HDMI)
  - YCBCR
  - RGB
- スクリーンセーバー
  - 入
  - 切
- 背景画面
  - ジャケットピクチャー
  - グラフィックス
  - 青
  - 黒
- 4:3出力
  - フル
  - ノーマル

スピーカー設定

- 接続
  - フロント
    - あり
  - センター
    - あり
    - なし
  - サラウンド
    - あり
    - なし
  - サブウーファー
    - あり
- 距離 (フロント)
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
  - センター — 0.0 m - 7.0 m
  - サブウーファー — 0.0 m - 7.0 m
- 距離 (サラウンド)
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
- レベル調整 (フロント)
  - L — -6.0 dB - +6.0 dB
  - R — -6.0 dB - +6.0 dB
  - センター — -6.0 dB - +6.0 dB
  - サブウーファー — -6.0 dB - +6.0 dB
- レベル調整 (サラウンド)
  - L — -6.0 dB - +6.0 dB
  - R — -6.0 dB - +6.0 dB
- テストトーン
  - 切
  - 入

システムメニュー項目一覧表

リモコンで以下のシステムメニュー項目を設定することができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

システムメニュー

- A/V SYNC
  - LONG（長）
  - SHORT（短）
  - OFF（オフ）
- ATTENUATE*
  - ATT ON（アッテネートオン）
  - ATT OFF（アッテネートオフ）
- ILLUM MODE
  - STANDARD（標準表示）
  - SIMPLE（簡単表示）
- INFO MODE
  - STANDARD（標準表示）
  - SIMPLE（簡単表示）

＊「ATTENUATE」はファンクションが「TV」のときのみ表示されます。

チューナーメニュー項目一覧表

リモコンで以下のチューナーメニュー項目を設定することができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

チューナーメニュー

- Memory?
- FM Mode?*
  - STEREO
  - MONO
- Name In?

＊「FM Mode?」はファンクションが「FM」のときのみ表示されます。

索引

あ行

アルバム 63、127
アングル 78
一時停止モード 112
イルミネーションモード 96
インターレース 110、127
インデックス 63
インフォメーションモード 95
オーディオDRC 112
お買い上げ時の設定に戻す 116
お手入れ 6、8、118
オリジナル 74
音声 72
音声映像選択モード 84
音声言語 107
音声トラック自動選定モード 112

か行

カスタム 106
カスタム視聴制限 99
画面設定 108
画面表示言語 107
クイック設定 24
言語コード一覧表 130
言語設定 107
故障かな？と思ったら 118
コントロールメニュー 46
コントロールユニット 132

さ行

再生
　コマ送り 63
　シャッフル再生 69
　スロー再生 63
　通常の再生 36
　早送り/早戻し再生 62
　プログラム再生 67
　リジューム再生 66
　リピート再生 70
　JPEG画像ファイルの再生 82
　MP3音声トラックの再生 82
　PBC再生 87
再生できるディスク 10
サウンドフィールド 49
サブウーファー 135
シーン 63、127
自己診断機能 123
システムメニュー 40、79、95
システムメニュー項目一覧表 138
視聴制限 99、127
視聴設定 111
自動音場補正 103、127
字幕 78
字幕言語 107
シャッフル 69
消音 38
スキャン 62
スクリーンセーバー 109
スピーカー設定 113
　距離 114
　接続 113
　レベル調整 115
スピーカーを壁に取り付ける 32
スライド送り時間 85
スライド効果 86
スライドショー 84
スリープタイマー 94
設定画面 106
　項目一覧表 137
ソフトタッチボタン 36

た行

タイトル 63、127
タイムサーチ 64
地域番号 12、127
チャプター 63、127
チューナーメニュー項目一覧表 138
つづき再生機能 112
ディスク
　再生する 36
　取り扱い 118
データCD 82
データDVD 82
デジタル音声入力 112
デジタルメディアポート 97
デジタル接続 29
テストトーン 115
テレビを操作する 91
テレビをつなぐ 27
電池 14
同梱物 13
トラック 63、127
ドルビーデジタル 72、127
ドルビープロロジックII 127

な行

ナイトモード 93

は行

背景画面 109
早送り 62
早戻し 62
ピクチャーナビ 65
ビデオ素材、フィルム素材 128
ビデオCD 87、128
表示窓 75、134
表示窓の明るさ 95
ファイル 63、128
プリセット 88
プレイバックコントロール (PBC) 87、128
プレイリスト 74
プログラム 67
プログレッシブ 110、128
放送局に名前をつける 90
本体表示 75
本体表示ボタン 90

ま行

マルチアングル 78、128
マルチセッションCD 12
マルチランゲージ 72、128
ムービー /ミュージックモード 44
メニュー言語 107

次のページへつづく

ら行

ラジオ 88
リージョンコード 12、127
リジューム 66
リモコン 14、91、136

A-Z、0-9

AAC 92、128
ATTENUATE 40
A/V SYNC 79
BASS/MIDDLE/TREBLE 51
DIMMER 95
DTS 72、129
DVD 129
DVDメニュー 72
DVD-RW 74、129
DVD+RW 129
DVI 28
D2映像信号 128
FM Mode 89
HDMI 27、129
HDMI音声 113
HDMIコントロール 52、111
JPEG画像ファイル 80、82
JPEG画像ファイル日付 77
MP3音声トラック 80、82
OMNI-DIRECTIONAL SOUND 50
STBシンクロ 112
TVタイプ 108
YCBCR/RGB (HDMI) 109
16：9 108
2ヶ国語放送 92
4：3パンスキャン 108
4：3レターボックス 108
4：3出力 109
5.1チャンネルサラウンド 73